

SoftLogix 5
コントローラ

手順ガイド

バージョン1.1

Windows NT4.0オペレーティングシステム用

お客さまへのご注意

ソリッドステート機器はエレクトロメカニカル機器とは動作特性が異なります。さらにソリッドステート機器はいろいろな用途に使われることから、この機器の取扱責任者はその使用目的が適切であるかどうかを充分確認してください。この機器の使用によって何らかの損害が生じても当社は一切責任を負いません。詳しくは、パブリケーションナンバーSGI-1.1『ソリッド・ステート・コントロール 安全ガイドライン』を参照してください。

本書で示す図表やプログラム例は本文を容易に理解できるように用意されているものであり、その結果としての動作を保証するものではありません。個々の用途については数値や条件が変わってくることが多いため、当社では図表などで示したアプリケーションを実際の作業で使用した場合の結果については責任を負いません。

本書に記載されている情報、回路、機器、装置、ソフトウェアの利用に関して特許上の問題が生じても、当社は一切責任を負いません。

当社の事前の文書による承諾なしに、本ソフトウェアおよび本書の一部または全部を複製することを禁じます。

製品改良のため、仕様などを予告なく変更することがあります。

本書を通じて、特定の状況下で起こりうる人体または装置の損傷に対する警告および注意を示します。

注意：本書内の「注意」は正しい手順を行わない場合に、人体に障害を加える事項、および装置の損傷または経済的な損害を生じうる事項を示します。

これらの項目により以下の説明を行いません。

- トラブルが起こりうる場合
- トラブルの原因
- 不適当な操作を行なった場合の結果
- トラブルの回避方法

重要：ソフトウェアをご利用の場合は、データの消失が考えられますので、適当な媒体にアプリケーションプログラムのバックアップをとることをお奨めします。

本版は、ABT-1789-TSJ50 -September,1998の和訳です。
ABT-1789-TSJ50を正文といたします。

本書の使用方法

- 本書について
- 本書では、Windows NT4.0オペレーティングシステムとSoftLogix 5コントローラ・ユーザ・インターフェイスを使用して、一般的な作業を行なう手順を示します。
- 本書は、Windows®オペレーティングシステムの基本的な用語と手順を知っているユーザ向けに作成されました。用語の意味や手順の実行方法は、付録の「ウィンドウの基礎」を参照してください。
- 本書は、別のトレーニング教材を併読しなくても使用できますが、Rockwell Automationの最新のWindows NT 4.0とSoftLogix 5トレーニングコースで使用するために開発されたものです。

- 本書の使用方法
- 本書を使用するには、次の手順に従います。
1. 使用したい手順を目次や索引で調べます。
 2. 必要なページを開きます。どのような目的に使用する操作なのか、次の見出しの箇所に掲載されています。
この手順の
目的：
 3. Windows NT 4.0やSoftLogix 5ユーザインターフェイスの操作に関しては、次を参照してください。
 - Windows NTユーザインターフェイスの操作
 - SoftLogix 5ユーザインターフェイスの操作
 4. そこに示されている手順に従います。
- " 本書の手順の中には、3文字の拡張子(.exeなど)が付いたファイル名を参照するようになっているものがあります。コンピュータのセットアップ内容によっては、画面に拡張子が表示されない場合があります。
- " 本書では2種類のタブを使用します。上のタブはWindows NT 4.0の手順を表し、下のタブはSoftLogix 5の手順を表します。

さらに詳しい情報 Windows NT 4.0オペレーティングシステムとSoftLogix 5コントローラのユーザインターフェースの詳細情報を得られるように、Windows NT 4.0オペレーティングシステムのメインウィンドウと、SoftLogix 5ユーザインターフェースの各ダイアログボックスに、Helpメニューが用意されています。

表記規則 本書の手順では、わかりやすくするために、次のような表記規則を使用しています。

記号または表記	意味
重要 :	手順を完了するために必要な情報
"	ヒントや注記
Automap Selected entries... のように、矢印でつないだ太字	最初の項目のサブメニューになっている選択肢
Save のような太字	選択肢またはオプション。 注：この言葉は画面表示どおりに記載されています。
[Delete] のように、角括弧で囲んだ太字	キーボードのキー

目次

SoftLogix 5コントローラ用にWindows NT 4.0オペレーティングシステムをインストールする準備	1
この手順の目的：	1
システムに必要な条件の判断	1
ハードウェアの必要条件 (最低限)	1
ソフトウェアに必要な条件	2
はじめに	2
Windows NTオペレーティングシステムへのログオン	3
この手順の目的：	3
Windows NTオペレーティングシステムからのログオフ .	5
この手順の目的：	5
Windows NTユーザインターフェイスの操作	7
この手順の目的：	7
アプリケーションの起動	7
ショートカットの作成	9
アイコン名の変更	9
Windows NT Explorerの使用方法	10
システム修復ディスクの作成	13
この手順の目的：	13
テープ・バックアップ・システムの構成	15
この手順の目的：	15

テープバックアップの作成	17
この手順の目的：	17
ユーザアカウントの作成	19
この手順の目的：	19
ユーザアカウントの修正	21
この手順の目的：	21
ネットワークサービスとプロトコルの検査	23
この手順の目的：	23
Windows NTユーザインターフェイスの ロック / ロック解除	25
この手順の目的：	25
ワークステーションのロック	25
ワークステーションのロック解除	26
Event Viewerによるイベントの監視	27
この手順の目的：	27
Windows NTオペレーティングシステムのシャットダウン / 再起動	29
この手順の目的：	29
マウスコマンドを使用する場合	29
キーボードコマンドを使用する場合	31

サーバコンピュータでのRemote Access Service (RAS)の構成	33
この手順の目的：	33
サーバコンピュータ上でのRASの構成	33
サーバコンピュータの構成	35
共有ドライブの作成	36
共有ドライブへのアクセス権の修正	38
サーバコンピュータでの通信ポートの構成	39
Remote Access Service (RAS)用のクライアントコンピュータの構成	41
この手順の目的：	41
クライアントコンピュータでのRASの構成	41
新しい通信ポートの構成	44
既存通信ポートの構成	45
クライアントコンピュータでのダイヤルアップネットワークの構成 ..	46
ダイヤルアップネットワークの初期化	49
ネットワークドライブの割当て	50
SoftLogix 5コントローラのインストール	51
この手順の目的：	51
SoftLogix 5制御エンジンのインストール	51
TCP/IPネットワークの構成	52
SoftLogix 5ユーザインターフェイスの操作	55
この手順の目的：	55
SoftLogix 5ユーザインターフェイスのマッピング	55
Status MonitorダイアログボックスやConfiguration Managerダイアログ ボックスへのアクセス	56
SoftLogix 5コントローラの構成	57
この手順の目的：	57
サービスの構成	58

SoftLogix 5コントローラ用のユーザアカウントの作成 ...	63
この手順の目的：	63
SoftLogix 5コントローラの起動 / 停止	65
この手順の目的：	65
SoftLogix 5コントローラの起動	65
SoftLogix5コントローラの停止	66
割込みとメモリアドレスの判断	67
この手順の目的：	67
1784-KTx通信カードの装着と構成	69
この手順の目的：	69
リモートI/O通信用のSoftLogix 5コントローラの構成	71
この手順の目的：	71
リモート / ラン / プログラムモードの選択	73
この手順の目的：	73
リモート・プログラミング・ソフトウェアと SoftLogix 5コントローラ間のRAS接続の確立	75
この手順の目的：	75
フォルトのクリア	77
この手順の目的：	77
システムパフォーマンスのモニタ	79
この手順の目的：	79
TestTimeプログラムの実行	79
Performance Monitorの実行	81

End-of-scan休止時間の調整	85
この手順の目的：	85
スキャン時間の定義	85
End-of-scan休止時間の調整	86
DDEリンクの構成	87
この手順の目的：	87
SoftLogix5通信ドライバの構成	87
ネットワーク通信の構成	88
RSWhoの実行	89
DDEトピックの構成	89
DDEリンクの確立	90
付録A – マウスとキーボードによる操作	91
キーボードを使用する場合	91
マウスを使用する場合	91
マウスを使用する場合 (続き)	92
付録B – Windowsの基本的な操作	93
この手順の目的：	93
ソフトウェアプログラムの起動	93
ファイルを開く	94
ウィンドウやダイアログボックスを閉じる	94
ファイルの保存	95
アクティブなアプリケーションプログラムの切換え	95
用語集	97
索引	103

SoftLogix 5コントローラ用に Windows NT 4.0オペレーティングシ ステムをインストールする準備

**この手順の
目的：** SoftLogix 5コントロールシステム用にWindows NT 4.0オ
ペレーティングシステムをインストールするのに必要な
ハードウェアとソフトウェアを、よく理解します。

**システムに必要
な条件の判断** 次に示すハードウェアとソフトウェアの最低条件は、
Windows NT 4.0オペレーティングシステムが動作してい
るコンピュータと、SoftLogix 5コントローラを対象とし
て設定されたものです。

ハードウェアの必要条件 (最低限)

- 100MHz Pentiumプロセッサ
- 32MバイトのRAM
- CD-ROMドライブ
- VGAモニタ
- Windows NT 4.0オペレーティングシステム用に最低
20Mバイトの空き容量を備えたハードディスク
 - 1784-KTx通信カード
 - 1747-OCKTx通信カード
 - 1784-CIDS通信カードと1770-KFDインターフェイス
アダプタ

ソフトウェアに必要な条件

- Windows NT 4.0オペレーティングシステム (サービスパック3を適用)
- Windows NTネットワーク機能 – Workstation, Server, RPC Configuration サービス
- Windows NT Computer Browser Service
- PLC-5A.I. シリーズソフトウェア (バージョン8.01以降)、またはRSLogix 5ソフトウェア (バージョン2.0)
- SoftLogix5コントローラ
- RSLinx (バージョン1.7以降)

はじめに

Windows NT 4.0オペレーティングシステムの実際のインストール手順は、ハードウェア構成によって異なります。コンピュータや周辺機器の付属マニュアルを見て、ワークステーションの構成方法に関する指示を調べてください。Windows NT 4.0オペレーティングシステムをインストールするときは、次に示す情報を考慮する必要があります。

- 自分のワークステーションハードウェアを、前述の「システムに必要な条件」で示したハードウェアと比べます。ワークステーションがハードウェア必要条件と同等か、それ以上であることを確認します。
- 自分のハードウェアを、Windows NTハードウェア互換リスト (Windows NT 4.0ソフトウェアパッケージに付属)と比較します。自分のハードウェアが、リストに掲載されたものと一致しなかった場合は、Windows NT 4.0オペレーティングシステムとSoftLogix 5コントローラを正常にインストールできないおそれがあります。
- Windows NT 4.0ネットワーク機能は、ネットワークに接続しない場合でもインストールしなければなりません。
- 停電が発生した場合にWindows NT 4.0オペレーティングシステムを正常終了できるように、無停電電源装置 (UPS)をできる限り用意してください。

Windows NTオペレーティングシステムへのログオン

この手順の
目的：

Windows NTオペレーティングシステムにログオンします。

''

Windows NTオペレーティングシステムにログオンする前に、管理者は、ユーザ名とパスワードで構成されたアカウントを作成する必要があります。

1. 適切なオプションを選択して、ログオンプロセスを開始します。

現在の状態	操作
Begin Logonダイアログボックスが表示されている。	手順2.に進む。
Windows NTデスクトップが表示されている。	ユーザがすでにWindows NTオペレーティングシステムにログオンしている。次の手順に従って、そのユーザの名前を判断する。 A. [Ctrl]+[Alt]+[Del]キーを押す。 ログオン中のユーザが示されたWindows NT Securityダイアログボックスが表示される。 B. 5ページに従ってログオフする前に、そのユーザに連絡する。
Workstation Lockedダイアログボックスが表示されている。	該当するユーザまたは管理者に連絡して、コンピュータへのアクセス権を入手する。

2. [Ctrl]+[Alt]+[Del]キーを押します。

Logon Informationダイアログボックスが表示されます。

3. **username:** ボックスに自分のユーザ名を入力します。

4. **[Tab]**キーを押して、**Password:**ボックスに進みます。

5. **Password:**ボックスにパスワードを入力します。

" パスワードでは大文字/小文字が区別されます。パスワードを入力するときは、大文字と小文字を正しく使い分けてください。

文字を入力する度に“x”が表示されます。

6. **OK**をクリックすると、Windows NTデスクトップが表示されます。

Windows NTオペレーティングシステムからのログオフ

この手順の
目的：

他のユーザがログオンできるように、Windows NTオペレーティングシステムでのセッションを終了します。

'' SoftLogix 5コントローラは、ユーザのログオンセッションとは無関係に動いているサービスです。SoftLogix 5コントローラが実行されている場合は、ユーザがログオフしても動き続けます。

1. セッション中に使用していたアプリケーションを閉じます。

2. **[Ctrl]+[Alt]+[Del]**キーを押します。

ログオン中のユーザの名前を示すWindows NT Securityダイアログボックスが表示されます。

3. **Logoff...**をクリックします。

'' 開いている文書があれば、保存するように指示されます。

Logoff Windows NTメッセージボックスが表示されません。

4. **OK**をクリックします。

画面が消去され、Begin Logonダイアログボックスが表示されます。

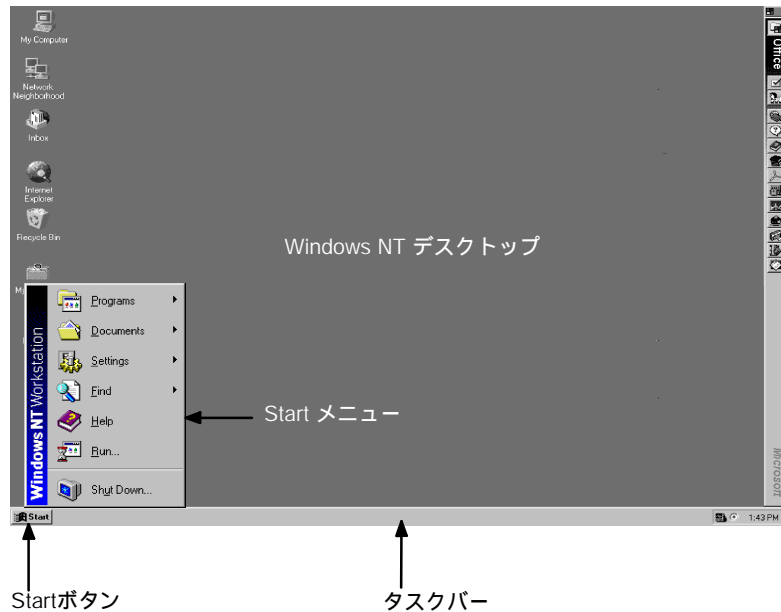
Windows NTユーザインターフェイスの操作

この手順の目的： Windows NTユーザインターフェイスの使用方法を示します。

この手順は、コンピュータの電源を投入し、Windows NTオペレーティングシステムにログオンしていることを前提にしています。

アプリケーションの起動 以下の手順に従って、Startメニューからアプリケーションを起動してください。

1. 画面下部のタスクバーにあるWindowsのStartボタンをクリックします。



Startメニューが表示されます。

2. 該当するオプションを選択して、アプリケーションを起動します。

アプリケーションの 起動方法	操作
Programsメニューを使用する場合	<p>A. StartメニューからProgramsを選択する。</p> <p>B. 開きたいプログラムが入ったフォルダを選択する。</p> <p>C. 目的のプログラム名をクリックする。そのプログラムが起動する。</p>
Run...コマンドを使用する場合	<p>A. StartメニューからRun...を選択する。Run...ダイアログボックスが表示される。</p> <p>B. 開くプログラムの名前をOpen:ボックスに入力する。</p> <p>C. OKをクリックする。プログラムが起動する。 または</p> <p>D. Browseをクリックして、開くプログラムを探す。</p> <p>E. Openをクリックする。</p>

ショートカットの作成 以下の手順に従って、頻繁にアクセスするプログラムや文書にアクセスするショートカットアイコンを作成してください。

1. デスクトップの**My Computer**アイコンをダブルクリックします。

My Computerウィンドウが開きます。

2. 探したいプログラムや文書が入ったディスクドライブのアイコンをダブルクリックします。

3. デスクトップにコピーしたい実行可能プログラムや文書を探します。

4. マウスの右ボタンを使用し、選択したプログラムや文書をクリックして、デスクトップにドラッグします。

メニューオプションのリストが表示されます。

5. **Create Shortcut(s) Here**を選択します。

デスクトップにショートカットアイコンが表示されま
す。

アイコン名の変更 以下の手順に従って、ショートカットアイコンの名前を変更してください。

1. アイコンをクリックして強調表示します。
2. アイコンの下にある名前をクリックします。

カーソルをテキストエリアに合わせます。

3. 必要な名前に変更します。

4. 終わったらデスクトップをクリックします。

アイコンが新しい名前で表示されます。

Windows NT Explorerの使用方法

以下の手順に従って、Windows NT Explorerを呼出して使用してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Programs Windows NT Explorer**の順に選択します。

Exploringウィンドウが開きます。

目的	操作
フォルダやサブディレクトリの内容の表示	<p>A. 表示したい内容があるフォルダをクリックする。</p> <p>ウィンドウの左側には、ワークステーションからアクセス可能なすべてのドライブが表示される。</p> <p>ウィンドウの右側には、ウィンドウの左側でクリックしたアイコンに対応するファイルとサブディレクトリが表示される。</p>
別の場所へのファイルのコピー	<p>A. コピーしたいファイルを探す。</p> <p>B. コピーしたいファイルをマウスの右ボタンでクリックし、コピー先までドラッグする。</p> <p>C. 正しい位置までドラッグできたら、マウスのボタンを離す。</p> <p>D. Copy Hereを選択する。</p>
別の場所へのファイルの移動	<p>A. 移動したいファイルを探す。</p> <p>B. 移動したいファイルをマウスの右ボタンでクリックし、移動先までドラッグする。</p> <p>C. 正しい位置までドラッグできたら、マウスのボタンを離す。</p> <p>D. Move Hereを選択する。</p>

(続く)

目的	操作
ドライブやフォルダの内容の展開	<p>A. 表示したいドライブやフォルダを探す。</p> <p>B. マイナス記号をクリックする。 ディレクトリの内容が表示され、アイコンの横にプラス記号が表示される。</p>
フォルダの新規作成	<p>A. フォルダを新規作成するドライブまたはフォルダを選択する。</p> <p>B. FileメニューからNew→Folderの順に選択する。 新しいフォルダが作成される。</p> <p>C. 新しいフォルダの名前を変更するには、名前をクリックする。 名前が強調表示される。</p> <p>D. FileメニューからRenameを選択する。 強調表示された名前の上にカーソルが表示される。</p> <p>E. フォルダの新しい名前を入力する。</p>

3. Windows NT Explorerウィンドウを閉じます。

システム修復ディスクの作成

この手順の
目的：

Windows NTの現在のシステム設定をフロッピーディスクに保存します。ハードディスクドライブのWindows NTシステムファイルが損傷したら、このディスクに格納されたファイルを使用して復元します。

重要：ソフトウェアコンポーネントのインストールが正常に終了したり、システムに変更を加えたりしたときは、システム修復ディスクを更新してください。

" フロッピーディスクは、システム修復ディスクの作成プロセス中に自動的にフォーマットされます。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。

2. **Run...**を選択します。

Runダイアログボックスが表示されます。

3. Open：ボックスにrdiskと入力します。

4. **OK**をクリックします。

Repair Disk Utilityダイアログボックスが表示されます。

5. 適切なオプションを選択して、システム修復ディスクを更新するか、新規作成します。

目的	操作
既存のシステム修復ディスクの更新	手順6.に進む。
システム修復ディスクの新規作成	手順10.に進む。

6. **Update Repair Info**をクリックします。

既存の修復情報が消去されることを示すRepair Disk Utilityメッセージボックスが表示されます。

7. **Yes**をクリックして続行します。

Saving Configurationメッセージボックスが表示され
ます。

システム修復ディスクが作成されることを示すRepair
Disk Utilityメッセージボックスが表示されます。

8. **Yes**をクリックして続行します。

Repair Disk Utilityメッセージボックスが表示され、フ
ロッピーディスクを適切なディスクドライブに挿入す
るよう指示されます。

9. 手順11.に進みます。

10. **Create Repair Disk**をクリックします。

Repair Disk Utilityメッセージボックスが表示され、フ
ロッピーディスクを適切なディスクドライブに挿入す
るよう指示されます。

11. フロッピーディスクを適切なディスクドライブに挿入
します。

12. **OK**をクリックします。

Formatting Diskメッセージボックスが表示されます。

Copying Configuration Filesメッセージボックスが表示
されます。

13. プロセスが終了したら、**Exit**をクリックします。

14. ディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し
て、適切なラベルを貼ります。

テープ・バックアップ・システムの構成

この手順の
目的：

Windows NTオペレーティングシステムを使用して、テープデバイスドライバを初期化します。

重要： テープへのバックアップ機能を使用できるのは、Backup Operatorsグループに割当てられたユーザのみです。テープ・バックアップ・システムにアクセスする必要がある場合は、システム管理者に相談してください。

この手順を実行するのは、通常、Windows NTオペレーティングシステムを先にインストールした場合や、テープドライブの構成内容を確認する必要がある場合です。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。

2. **Settings**→**Control Panel**の順に選択します。

Control Panelウィンドウが開きます。

3. **Tape Devices**アイコンをダブルクリックします。

Tape Devicesダイアログボックスが表示されます。

4. Tape Devicesダイアログボックスの内容に基づいて、適切なオプションを選択します。

状態	操作
フロッピーテープドライブが読み込まれている。	手順5に進んで、正しいドライブがインストールされていることを確認する。
フロッピーテープドライブが表示されない。	手順5に進む。
新しいフロッピーテープドライブがインストールされている。	手順5に進む。

5. Devicesタブを選択します。

6. Detectをクリックします。

適切なテープドライバが検出されます。

7. OKをクリックして、ドライバをインストールします。

指示に従ってファイルをコピーします。

8. Restartをクリックして、コンピュータを起動し直します。

コンピュータが再起動され、コンピュータにログオンするように指示されます。

テープバックアップの作成

この手順の
目的：

ハードディスクドライブのファイルのテープバックアップを作成して、システムの損傷時にファイルを復元できるようにします。

" テープバックアップを実行するのが初めての場合は、テープドライブに応じたドライバをインストールする必要があります (15ページの「テープ・バックアップ・システムの構成」を参照)。

重要： テープバックアップ機能を使用できるのは、Backup Operatorsグループに割当てられたユーザのみです。

1. テープカートリッジをテープドライブに挿入します。
2. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
3. **Programs** → **Administrative Tools (Common)** → **Backup**の順に選択します。
Backupウィンドウが開きます。
4. 必要な場合は、Drivesウィンドウの最大化ボタンをクリックします。
バックアップに使用できるディスクドライブのリストが表示されます。
5. テープにバックアップしたいドライブを選択します。
6. **Backup**をクリックします。
Backup Informationダイアログボックスが表示されます。
7. テープに付ける簡単なタイトルを**Description**：ボックスに入力します。

8. OKをクリックします。

Backup Statusウィンドウが開いて、バックアップ操作の要約が示されます。

9. OKをクリックします。

10. Backup Statusウィンドウを閉じます。

11. プロセスが終了したら、テープドライブからテープを取り出します。

12. 適切なラベルをテープに貼ります。

ユーザアカウントの作成

この手順の
目的：

個々のユーザアカウントを作成して、Windows NTオペレーティングシステムにアクセスレベルを割当てます。

重要：ユーザアカウントを作成するには、Administrator (管理者)になる必要があります。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Programs** → **Administrative Tools (Common)** → **User Manager**の順に選択します。
User Managerウィンドウが開きます。
3. Userメニューから**New User**を選択します。
New Userダイアログボックスが表示されます。
4. **Username:**、**Full Name:**、**Description:**の各ボックスに適切な情報を入力します。
5. 適切なオプションを選択して、ユーザパスワードを設定します。

ユーザ状態	操作
使用可能	<p>A. Password:ボックスにパスワードを入力し、Confirm Password:ボックスにもう一度入力する。</p> <p>B. User Must Change Password at Next Logon チェックボックスからチェックマークを外す。</p> <p>C. 必要に応じて、次に示すチェック・ボックス・オプションのいずれかを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • User <u>M</u>ust Change Password at Next Logon • User <u>C</u>annot Change Password • Password <u>N</u>ever Expires
使用不能	<p>A. Password:ボックスに一時パスワードを入力し、Confirm Password:ボックスに再入力する。</p> <p>B. User Must Change Password at Next Logon チェックボックスを選択する。</p>

6. **Groups**をクリックします。

Group Membershipsダイアログボックスが表示されま
す。

7. 適切なオプションを選択して、ユーザをグループに割
当てます。

目的	操作
グループへのメン バーの追加	<p>A. Not member of: リストからユーザグルー プを選択する。</p> <p>B. <-Addをクリックする。 このグループがMember of: リストに追加 される。</p> <p>C. ユーザを別のグループに追加するとき は、手順AとBを繰り返す。</p>
グループからの メンバーの削除	<p>A. Member of: リストからユーザグルー プを選択する。</p> <p>B. Remove->をクリックする。 このグループがMember of: リストから削 除される。</p> <p>C. 別のグループからユーザを削除するとき は、手順AとBを繰り返す。</p>

8. **OK**をクリックします。

User Propertiesダイアログボックスが表示されます。

9. 終わったら、**OK**をクリックします。

New Userダイアログボックスが表示されます。

10. 作成する他のアカウントについても、手順3. ~ 9.を繰返
します。

11. User Managerウィンドウを閉じます。

ユーザアカウントの修正

この手順の
目的：

Windows NTオペレーティングシステムへのユーザアクセス権を変更または無効にします。

重要：ユーザアカウントを修正するには、Administrator (管理者)になる必要があります。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Programs** → **Administrative Tools (Common)** → **User Manager**の順に選択します。
User Managerウィンドウが開きます。
3. 修正対象のユーザの名前をダブルクリックします。
User Propertiesダイアログボックスが表示されます。
4. 適切なオプションを選択して、ユーザのアカウントを修正します。

目的	操作
ユーザアクセスの無効	Account Disabled チェックボックスを選択して、アカウントを無効にする。
グループへのメンバーの追加	<p>A. Groupsをクリックする。</p> <p>B. Not member of:リストからユーザグループを選択する。</p> <p>C. <-Addをクリックする。 このグループがMember of:リストに追加される。</p> <p>D. ユーザを別のグループに割り当てるときは、手順A～Cを繰り返す。</p>

(続く)

目的	操作
グループからのメンバーの削除	<p>A. Groupsをクリックする。</p> <p>B. Member of: リストからユーザグループを選択する。</p> <p>C. Remove-->をクリックする。 このグループがMember of: リストから削除される。</p> <p>D. 別のグループからユーザを削除するときは、手順A～Cを繰り返す。</p>

5. **OK**をクリックします。

User Propertiesダイアログボックスが表示されます。

6. 終わったら、**OK**をクリックします。

7. 修正対象の残りのアカウントについても、手順3.～6.を繰り返します。

8. User Managerウィンドウを閉じます。

ネットワークサービスとプロトコルの検査

この手順の
目的：

SoftLogix 5コントローラのインストールと起動ができるように、必要なWindows NTネットワークサービスとプロトコルがアクティブになっていることを確認します。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Settings** → **Control Panel**の順に選択します。
Control Panelウィンドウが開きます。
3. **Services**アイコンをダブルクリックします。
Servicesダイアログボックスが表示されます。
4. Serviceリストをスクロールして、次に示すサービスが起動されていることを確認します。
 - Remote Procedure Call (RPC) Locator
 - Workstation
 - Server
5. Serviceリストをスクロールして、TCP/IPプロトコルが起動していることを確認します。
6. サービスを起動するときは、次に示す手順に従います。
 - A. アクティブにするサービスの名前を選択します。
 - B. **Start**をクリックします。
Service Controlメッセージボックスが表示され、サービスが起動していることが示されます。プロセスが終了すると、ステータスがStartedに設定されます。
 - C. 起動する残りのサービスについても、手順6Aと6Bを繰り返します。

7. **Close**をクリックします。
8. Control Panelウィンドウが閉じます。

Windows NTユーザインターフェイスの ロック / ロック解除

この手順の
目的： Windows NTユーザインターフェイスへのアクセスを制限
します。

ワークステー
ションのロック 以下の手順に従って、Windows NTユーザインターフェイ
スをロックしてください。

1. [Ctrl]+[Alt]+[Del]キーを押します。

画面がクリアされ、Windows NT Securityダイアログ
ボックスが表示されます。

" 次の手順に従うと、権限のないユーザがWindows NTユー
ザインターフェイスにアクセスするのを防止できます。
ワークステーションのロックを解除できるのは、ロックの
当事者とシステム管理者のみです。この手順に従っても、
SoftLogix 5コントローラの現在の動作ステータスに影響
はありません。

2. Lock Workstationをクリックします。

Workstation Lockedメッセージボックスが表示されま
す。

ワークステーションのロック解除

以下の手順に従って、Windows NTのロックを解除してください。

1. [Ctrl]+[Alt]+[Del]キーを押します。

Unlock Workstationダイアログボックスが表示されません。

2. 適切なオプションを選択して、ワークステーションのロックを解除します。

ユーザ状態	操作
ログオン中のユーザ	<p>A. 必要に応じて、User name:ボックスにユーザ名を入力する。</p> <p>B. Password:ボックスにパスワードを入力する。</p> <p>C. OKをクリックする。</p> <p>ワークステーションのロックが解除され、Windows NTデスクトップが表示される。</p>
ログオン中のユーザ以外	<p>管理者に相談する。</p>
管理者権限の保有者	<p>A. User name:ボックスにユーザ名を入力する。</p> <p>B. Password:ボックスにパスワードを入力する。</p> <p>C. OKをクリックする。</p> <p>Windows Messageボックスが表示され、現在のユーザがログオフ状態になり、未保存のデータが消失することが示される。</p> <p>D. OKをクリックする。</p> <p>画面が消去され、Begin Logonダイアログボックスが表示される。</p>

Event Viewerによるイベントの監視

この手順の
目的：

Windows NTオペレーティングシステム、アプリケーションプログラム、セキュリティイベントを対象に記録されたログの履歴を表示します。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Programs → Administrative Tools (Common) Event Viewer**の順に選択します。

Event Viewer画面が表示されます。

3. 適切なオプションを選択して、記録された情報を表示します。

表示対象	操作
Windows NTシステムが記録したイベント (ドライバ障害など)	<p>A. LogメニューからSystemを選択する。</p> <p>B. 任意のイベントをダブルクリックして、Event Detailsダイアログボックスを表示する。</p>
<p>可能性があるセキュリティ違反 (ログオン試行など)</p> <p>注：このオプションを使用できるのは、管理者権限を持つユーザのみ</p>	<p>A. LogメニューからSecurityを選択する。</p> <p>B. 任意のイベントをダブルクリックして、Event Detailsダイアログボックスを表示する。</p>
ソフトウェアアプリケーションが記録したイベント (データベース・ファイル・エラーなど)	<p>A. LogメニューからApplicationを選択する。</p> <p>B. 任意のイベントをダブルクリックして、Event Detailsダイアログボックスを表示する。</p>
最新のログ情報から順に	Viewメニューから Newest First を選択する。
最古のログ情報から順に	Viewメニューから Oldest First を選択する。

4. 適切なオプションを選択して、記録された情報の格納用に予約するメモリ量をカスタマイズします。

目的	操作
ログメッセージの記録に割り当てるメモリ量の増減	<p>A. LogメニューからLog Settingsを選択する。</p> <p>B. 上下の矢印をクリックすると、割当量が64Kバイトずつ増減する。メモリの割当てが可能な範囲は64 ~ 4,194,176Kバイトです。</p>
イベントログ情報の予約方法または削除方法の変更	<p>A. LogメニューからLog Settingsを選択する。</p> <p>B. 次に示すオプションボタンのいずれかをクリックして、イベントの処理方法を指定する。</p> <ul style="list-style-type: none">• Overwrite Events as <u>N</u>eeded• Overwrite Events <u>O</u>lder than 1-365 Days• Do Not Overwrite Events (Clear <u>L</u>og Manually)

5. Event Viewerウィンドウを閉じます。

Windows NTオペレーティングシステムのシャットダウン / 再起動

この手順の
目的：

Windows NTオペレーティングシステムとSoftLogix 5コントローラの電源を切断する準備をします。



注意：Windows NTオペレーティングシステムをシャットダウンすると、SoftLogix 5コントローラも停止します。誰かが負傷したり、装置が損傷したりすることがないように、制御システムをシャットダウンしても安全なことを確認してください。

マウスコマンド
を使用する場合

以下の手順に従って、マウスを使用してWindows NTオペレーティングシステムをシャットダウン / 再起してください。

1. SoftLogix 5制御システムをシャットダウンしても安全なことを確認します。
2. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
3. **Shut Down...**を選択します。

Shut Down Windowsダイアログボックスが表示されません。

4. 適切なオプションを選択して、Windows NTオペレーティングシステムをシャットダウンまたは再起動します。

目的	操作
コンピュータの電源シャットダウン	<p>A. Shut down the computer? オプションボタンを選択する。</p> <p>B. Yesを選択する。 Logoff in Progress and Shutdown in Progressメッセージボックスが表示される。</p> <p>C. Shutdown Computerメッセージが表示されたら、コンピュータの電源を切る。</p>
コンピュータの再起動	<p>A. Restart the computer? オプションボタンを選択する。</p> <p>B. Yesをクリックする。 Logoff in Progress and Shutdown in Progressメッセージボックスが表示される。 コンピュータが自動的に再起動される。</p>

キーボードコマンドを使用する場合 以下の手順に従って、キーボードを使用してWindows NTオペレーティングシステムをシャットダウン / 再起動してください。

1. SoftLogix 5制御システムを安全にシャットダウンできることを確認します。
2. **[Ctrl]+[Alt]+[Delete]**キーを押します。
Windows NT Securityダイアログボックスが表示されません。
3. “S”を押して**Shut Down...**を選択します。
4. 適切なオプションを選択して、Windows NTオペレーティングシステムをシャットダウンまたは再起動します。

目的	操作
コンピュータの電源シャットダウン	<p>A. “S”を押してShutdownを選択する。</p> <p>B. [Enter]を押す。 Logoff in Progress and Shutdown Computerメッセージボックスが表示される。</p> <p>C. Shutdown Computerメッセージが表示されたら、コンピュータの電源を切る。</p>
Windows NTの再起動	<p>A. “R”を押してShutdown and Resartを選択する。</p> <p>B. Enterを押す。 Logoff in Progress and Shutdown in Progressメッセージボックスが表示される。 コンピュータが自動的に再起動される。</p>

サーバコンピュータでのRemote Access Service (RAS)の構成

この手順の
目的： Remote Access Service用のサーバとしてコンピュータを構成します。

サーバコン
ピュータ上での
RASの構成 以下の手順に従って、ネットワーク通信カードを備えていないコンピュータでRASを構成してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Settings** → **Control Panel**の順に選択します。
Control Panelウィンドウが開きます。
3. **Network**アイコンをダブルクリックします。
Networkダイアログボックスが表示されます。
4. **Services**タブを選択します。
5. **Add...**をクリックします。
Select Network Serviceダイアログボックスが表示されます。
6. Network Serviceリストから**Remote Access Service**オプションを探して選択します。
7. **OK**をクリックします。
Windows NT Setupダイアログボックスが表示されます。
8. セットアップファイルの場所を入力します (C:\i386\など)。
9. **Continue**をクリックします。
一連のRAS設定ダイアログボックスが表示されます。

10. Add RAS Deviceダイアログボックスで**Install Modem...**をクリックします。

Install New Modemダイアログボックスが表示され
ます。

11. **Don't detect my modem; I will select it from a list**チェ
ックボックスをクリックします。

12. **Next>**をクリックします。

13. 製造メーカーリストから**Standard Modem Types**を選
択します。

14. **Dial-Up Networking Serial Cable between 2 PCs**オブ
ションを選択します。

15. **Next>**をクリックします。

16. 通信ポートを選択します (Com 1など)。

17. **Next>**をクリックします。

18. **Finish**をクリックします。

Add RAS Deviceダイアログボックスが表示されま
す。

19. **OK**をクリックします。

Remote Access Setupダイアログボックスが表示され
ます。

20. **Configure...**をクリックします。

21. Port Usageリストから**Receive calls only**オプションボタ
ンを選択します。

22. **OK**をクリックします。

Remote Access Setupダイアログボックスが表示され
ます。

23. **Network...**をクリックします。

24. Server Settingsリストから**NetBEUI**チェックボックスを
選択します。

25. Encryption設定リストから、**Require Microsoft encrypted authentication** オプションボタンを選択します。
26. **OK**をクリックします。
Remote Access Setupダイアログボックスが表示されず。
27. **Continue**をクリックします。
Windows Network Installationダイアログボックスの次に、Networkダイアログボックスが表示されます。
28. **Close**をクリックします。
29. バインド構成がセットアップされます。
30. 指示されたら、Windows NTオペレーティングシステムを起動し直します。

サーバコンピュータの構成

以下の手順に従って、サーバコンピュータを構成してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Programs** → **Administrative Tools (Common)** → **Remote Access Admin**の順に選択します。
Remote Access Adminウィンドウが開きます。
3. Usersメニューから**Permissions**を選択します。
Remote Access Permissionsダイアログボックスが表示されます。
4. **Users**リストで、リモートアクセスを許可する名前を選択します。
5. 適切なユーザの**Grant dialin permission toユーザ**チェックボックスをクリックします。
6. サーバコンピュータへのリモートアクセスを許可する残りのユーザについても、手順4.と5.を繰り返します。

7. Call Backリストから**No Call Back**オプションボタンを選択します。

8. **OK**をクリックします。

9. Serverメニューオプションで**Start Remote Access Service...**オプションを選択します。

Start Remote Access Serviceダイアログボックスが表示されます。

10. **Server**フィールドに現在のサーバ名が表示されていることを確認します。

11. **OK**をクリックします。

サービスを起動しようとする、Service Controlメッセージボックスが表示されます。

Remote Access Admin on <サーバ名>ダイアログボックスが表示され、サービスが動作していることが示されます。

共有ドライブの作成 以下の手順に従って、サーバコンピュータに共有リソース(ドライブ)を用意して、クライアントコンピュータから直接アクセスできるようにしてください。

1. Windows NTデスクトップの**My Computer**アイコンをダブルクリックします。

My Computerウィンドウが開きます。

2. リモートコンピュータと共有したいドライブを表すアイコンを、マウスの右ボタンでクリックします。

3. メニューオプションから**Sharing...**を選択します。

<コンピュータ名> Propertiesダイアログボックスが表示されます。

4. **Shared As**オプションボタンを選択します。

5. **New Share...**をクリックします。

New Shareウィンドウ・ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. **Shared Name**フィールドに、ユーザが共有ドライブの指定に使用する名前を入力します (drive Cなど)。

7. **Permissions...**をクリックします。

Access Through Share Permissionsダイアログボックスが表示されます。

8. **Add...**をクリックします。

Add Users and Groupsダイアログボックスが表示されま

す。

9. 共有権限を与えたいユーザの名前を指定します。

10. **Add...**をクリックします。

ユーザの名前がAdd Namesリストに表示されます。

11. **OK**をクリックします。

Access Through Share Permissionsダイアログボックスが表示されます。

12. **Name**リストのユーザをクリックします。

13. **Type of Access**ドロップダウン・リスト・ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- No Access
- Read
- Change
- Full Control

14. **OK**をクリックします。

New Shareダイアログボックスが表示されます。

15. **OK**をクリックします。

Propertiesダイアログボックスが表示されます。

16. **Apply**をクリックします。

17. **OK**をクリックします。

Propertiesダイアログボックスが閉じます。

共有ドライブへのアクセス権の修正

以下の手順に従って、共有ドライブへのアクセス権を変更してください。

1. Windows NTデスクトップの**My Computer**アイコンをダブルクリックします。

My Computerアイコンが開きます。

2. リモートコンピュータと共有したいドライブを表すアイコンを、マウスの右ボタンでクリックします。

3. メニューオプションから**Sharing...**を選択します。

<コンピュータ名> Propertiesダイアログボックスが表示されます。

4. ドロップダウン・リスト・ボックスから、**Shared Name**を選択します。

5. **Permissions...**をクリックします。

Access Through Share Permissionsダイアログボックスが表示されます。

6. **Name**リストのユーザをクリックします。

7. 適切なオプションを選択して、共有権限を修正します。

目的	操作
ユーザ権限の削除	<p>A. Name: リストからユーザの名前を選択する。</p> <p>B. Removeをクリックする。</p> <p>C. 手順9.に進む。</p>
ユーザ権限の修正	<p>A. Name: リストからユーザの名前を選択する。</p> <p>B. 手順9.に進む。</p>

8. Type of Accessドロップダウン・リスト・ボックスから、次に示すオプションのいずれかを選択します。

- No Access
- Read
- Change
- Full Control

9. **OK**をクリックします。

<コンピュータ名> Propertiesダイアログボックスが表示されます。

10. **Apply**をクリックします。

11. **OK**をクリックします。

<コンピュータ名> Propertiesダイアログボックスが閉じます。

サーバコンピュータでの通信ポートの構成

以下の手順に従って、サーバコンピュータでシリアル通信ポートを構成してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。

2. **Settings** → **Control Panel**の順に選択します。

Control Panelウィンドウが開きます。

3. **Ports**アイコンをダブルクリックします。

Portsウィンドウが開きます。

4. 適切なオプションを選択して、通信ポートを設定します。

目的	操作
通信ポートの追加	<p>A. Add...をクリックする。 Advanced Settings for New Portダイアログボックスが表示される。</p> <p>B. 手順5に進む。</p>
既存の通信ポートのセットアップ	<p>A. セットアップする通信ポートをPortsリストから選択する。</p> <p>B. 手順6.に進む。</p>

5. 使用する通信ポートを選択します (COM1など)。
6. **Settings...**をクリックします。
Settings for <通信ポート>ダイアログボックスが表示されます。
7. **Baud Rate**を、使用可能な最大通信速度(19200bpsなど)に設定します。
8. **Data Bits**を8に設定します。
9. **Parity**をNoneに設定します。
10. **Stop Bits**を1に設定します。
11. **Flow Control**をHardwareに設定します。
12. **Advanced...**をクリックします。
Advanced Settings for <通信ポート>ダイアログボックスが表示されます。
13. **COM Port Number**を、使用する通信ポートの番号 (1など)に設定します。
14. **Base I/O Port Address**と**Interrupt Request Line**オプションをDefaultに設定します。
15. **OK**をクリックします。
16. 指示されたら、Windows NTオペレーティングシステムを起動し直します。

Remote Access Service (RAS)用のクライアントコンピュータの構成

この手順の目的： Remote Access Serviceを通じてサーバに接続できるように、クライアントコンピュータを構成します。

クライアントコンピュータでのRASの構成 以下の手順に従って、コンピュータでRASを構成してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. **Settings** → Control Panelの順に選択します。
Control Panelウィンドウが開きます。
3. **Network**アイコンをダブルクリックします。
Networkダイアログボックスが表示されます。
4. Servicesタブを選択します。
5. 適切なオプションを選択して、Remote Access **Service**を構成します。

状態	操作
RASがインストールされていない。	手順8.に進む。
RASがインストールされている。	A. Servicesリストから Remote Access Service を選択する。 B. properties... をクリックする。 C. 手順21.に進む。

6. **Add...**をクリックします。
Select Network Serviceダイアログボックスが表示されます。
7. Network Serviceリストから**Remote Access Service**オプションを探して、選択します。

8. OKをクリックします。

Windows NT Setupダイアログボックスが表示され
ます。

9. セットアップファイルの場所を入力します (C:\i386\な
ど)。

10. Continueをクリックします。

一連のRAS setupダイアログボックスが表示され
ます。

11. Add RAS Deviceダイアログボックスで**Install Modem...**
をクリックします。

Install New Modemダイアログボックスが表示され
ます。

12. Don't detect my modem; I will select it from a listチェッ
クボックスをクリックします。

13. Next>をクリックします。

14. 製造メーカーリストからStandard Modem Typesを選
択します。

15. Dial-Up Networking Serial Cable between 2 PCsオブ
ションを選択します。

16. Next>をクリックします。

17. Com 1などの通信ポートを、通信ポートとして選
択します。

18. Next>をクリックします。

19. Finishをクリックします。

Add RAS Deviceダイアログボックスが表示され
ます。

20. OKをクリックします。

Remote Access Setupダイアログボックスが表示され
ます。

21. Configure...をクリックします。

Configure Port Usageダイアログボックスが表示され
ます。

22. Port Usageリストから**Dial out only**オプションボタ
ンを選択します。**23. OK**をクリックします。

Remote Access Setupダイアログボックスが表示され
ます。

24. Network...をクリックします。**25.** Dial out Protocolsリストから**NetBEUI**チェックボッ
クスを選択します。**26. OK**をクリックします。

Remote Access Setupダイアログボックスが表示され
ます。

27. Continueをクリックします。

Windows Network Installationダイアログボックスに引
き続いて、Networkダイアログボックスが表示され
ます。

28. Closeをクリックします。

バインド構成が設定されます。

29. 指示されたら、Windows NTオペレーティングシステ
ムを起動し直します。

新しい通信ポートの構成 以下の手順に従って、クライアントコンピュータで新しいシリアル通信ポートを構成してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。

2. **Settings** → **Control Panel**の順に選択します。

Control Panelウィンドウが開きます。

3. **Ports**アイコンをダブルクリックします。

Portsダイアログボックスが表示されます。

4. **Add...**をクリックします。

Advanced Settings for New Portダイアログボックスが表示されます。

5. COM Port Numberドロップダウン・リスト・ボックスから通信ポートの番号を選択します。

" **Base I/O Address**と**Interrupt Request Line**に表示された値が、推奨するシステム設定です。

6. **Base I/O Address**と**Interrupt Request Line**の値を、システムに応じた値に設定します。

7. **OK**をクリックします。

System Setting Changeメッセージボックスが表示されます。

8. **Don't Restart Now**をクリックします。

9. **Settings...**をクリックします。

Settings for <通信ポート>ダイアログボックスが表示されます。

10. Baud Rateを、使用可能な最大通信速度に設定します (115200bpsなど)。

11. **Data Bits**を8に設定します。

12. **Parity**をNoneに設定します。

13. **Stop Bits**を1に設定します。

14. **Flow Control**をHardwareに設定します。

15. **OK**をクリックします。

Portsダイアログボックスが表示されます。

16. **Close**をクリックします。

Control Panelウィンドウが表示されます。

17. Windows NTオペレーティングシステムを起動し直します。

既存通信ポート の構成

以下の手順に従って、クライアントコンピュータで既存のシリアル通信ポートを構成してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。

2. **Settings** → **Control Panel**の順に選択します。

Control Panelウィンドウが開きます。

3. **Ports**アイコンをダブルクリックします。

Portsダイアログボックスが表示されます。

4. 使用する通信ポートを選択します (COM1など)。

5. **Settings...**をクリックします。

Settings for <通信ポート>ダイアログボックスが表示されます。

6. Baud Rateを、使用可能な最大通信速度に設定します (19200bpsなど)。

7. **Data Bits**を8に設定します。

8. **Parity**をNoneに設定します。

9. **Stop Bits**を1に設定します。

10. **Flow Control**をHardwareに設定します。

11. Advanced...をクリックします。

Advanced Settings for <通信ポート>ダイアログボックスが表示されます。

12. COM Port Numberを、使用する通信ポートの番号に設定します (1など)。**13. Base I/O Port Address**オプションと**Interrupt Request Line**オプションをDefaultに設定します。**14. OK**をクリックします。**15. Windows NTオペレーティングシステム**を起動し直します。

クライアントコンピュータでのダイヤルアップネットワークの構成

以下の手順に従って、クライアントワークステーションを構成してください。

1. **My Computer**アイコンをダブルクリックします。
2. **Dial-Up Networking**アイコンをダブルクリックします。
3. 適切なオプションを選択して、ダイヤルアップネットワークを構成します。

状態	操作
電話帳が空白というメッセージが表示される。	手順4.に進む。
Dial-Up Networkingダイアログボックスが表示される。	手順12.に進む。

4. OKをクリックします。

New Phonebook Entry Wizardダイアログボックスが表示されます。

5. Name the new phonebook entryフィールドに名前を入力します。

6. **Next>**をクリックします。

Serverダイアログボックスが表示されます。

7. チェックボックスが選択されていないことを確認します。

8. **Next>**をクリックします。

Modem or Adapterダイアログボックスが表示されます。

9. Dial usingフィールドに**Dial-Up Networking Serial Cable between 2 PCs**オプションが表示されていることを確認します。

10. **Next>**をクリックします。

Phone Numberダイアログボックスが表示されます。

11. **Next>**をクリックします。

12. **Finish**をクリックします。

Dial-Up Networkingダイアログボックスが表示されます。

13. **More**をクリックします。

メニューオプションのリストが表示されます。

14. **Edit entry and modem properties...**オプションを選択します。

Edit Phonebook Entryダイアログボックスが表示されます。

15. **Basic**タブをクリックして、次の手順に従います。

A. Dial usingフィールドで、**Dial-Up Networking Serial Cable between 2 PCs**オプションを選択します。

B. **Use another port if busy**チェックボックスを選択解除します。

C. **Configure**をクリックします。

Modem Configurationダイアログボックスが表示されます。

D. 次に示す設定を行ないます。

- Baud Rateを19200に設定します。
- **Enable hardware flow control**チェックボックスを選択します。
- **Disable modem speaker**チェックボックスを選択します。

E. **OK**をクリックします。

16. **Server**タブをクリックして、次の手順に従います。

A. Dial-up server typeドロップダウンリストボックスから、**PPP : Windows NT, Windows 95 Plus, Internet**オプションを選択します。

B. Network protocolsリストから**NetBEUI**チェックボックスを選択します。

17. **Security**タブをクリックして、次の手順に従います。

A. **Accept only Microsoft encrypted authentication**オプションボタンを選択します。

B. 次のオプションが選択解除されていることを確認します。

- Require data encryption
- Use current username and password

18. **OK**をクリックします。

Dial-Up Networkingダイアログボックスが表示されます。

ダイヤルアップ ネットワークの初期化 以下の手順に従って、リモート・アクセス・サーバとして設定されたコンピュータにダイヤルしてください。

1. **My Computer**アイコンをダブルクリックします。

My Computerウィンドウが開きます。

2. **Dial-Up Networking**アイコンをダブルクリックします。

Dial-Up Networkingダイアログボックスが表示されます。

3. **Dial**をクリックします。

Connect to <phonebook entry name>ダイアログボックスが表示されます。

4. **User name**と**Password**を入力します。

5. **OK**をクリックします。

接続中のメッセージが表示され、クライアントPCとサーバPCが接続されると、Connection Completeダイアログボックスが表示されます。

6. **OK**をクリックします。

" サーバに接続できない場合は、両方のコンピュータのポート設定と、ヌル・モデム・ケーブル接続をダブルクリックします。

ネットワークドライブの割当て 以下の手順に従って、クライアントコンピュータからサーバコンピュータ上のリソース(ドライブ)にアクセスできるようにしてください。

1. クライアントコンピュータで**My Computer**アイコンをダブルクリックします。
2. Viewメニューから**Toolbar**を選択します。
3. ツールバーの**Map Network Drive**アイコンをクリックします。

Map Network Driveダイアログボックスが表示されます。

4. Driveドロップダウン・リスト・ボックスからドライブを選択します。
5. 次の形式を使用して、パスを選択します。

\\コンピュータ名\ディレクトリ (\\Client\Publicなど)

6. 適切なオプションを選択して、ログオン時に共有フォルダを接続する方法を構成します。

目的	操作
ログオン時に共有ドライブに自動的に接続したい場合	Reconnect at Logon を選択する。
ログオン時に共有ドライブに自動的に接続したくない場合	Reconnect at Logon を選択解除する。

7. **OK**をクリックします。
8. My Computerウィンドウの共有ドライブアイコンをダブルクリックします。

共有ドライブの内容が表示されます。

SoftLogix 5コントローラのインストール

この手順の
目的：

Windows NT 4.0オペレーティングシステムが動作しているコンピュータに、SoftLogix 5コントローラをインストールします。

重要： SoftLogix 5コントローラはWindows NT 4.0オペレーティングシステムでしか動きません。1ページの「推奨するシステム必要条件」を参照してください。

SoftLogix 5制御エンジンのインストール

以下の手順に従って、SoftLogix 5コントローラをインストールしてください。

SoftLogix 5コントローラを正常にインストールできるように、すべてのアプリケーションを閉じてから、インストール手順に進んでください。

1. Windows NTオペレーティングシステムに管理者としてログオンします (3ページの「Windows NTオペレーティングシステムへのログオン」を参照)。
2. SoftLogix 5 CD-ROMディスクを適切なCD-ROMドライブに挿入します。

SoftLogix 5のオープニング画面が自動的に表示されず。

'' SoftLogix 5コントローラに対応できるように、追加のドライバとソフトウェアをインストールするためのオプションが表示されます。画面の指示に従ってインストールを進めます。

3. **Install SoftLogix5 x.x**をクリックします。

SoftLogix5のインストールが始まります。

'' 起動ディスクが必要になるのは、新たにインストールする場合だけです。

4. 画面に表示されるインストール指示に従います。
5. インストールが完了したら、コンピュータを起動し直します。
6. Windows NTに管理者としてログオンします。

タスクバーのステータストレイにSoftLogix 5 LED (黒い点)が表示されたことを確認します。

TCP/IPネットワークの構成

以下の手順に従って、ネットワーク接続機能のないワークステーションに、Transport Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)ネットワーク機能をインストールしてください。

" これを実行する必要があるのは、ワークステーションが実際のTCP/IPネットワークに接続されていない場合だけです。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。
2. Settings → **Control Panel**の順に選択します。
Control Panelウィンドウが開きます。
3. **Network**アイコンをダブルクリックします。
Networkダイアログボックスが表示されます。
4. **Adapters**タブを選択します。
Network Adaptersリストボックスが表示されます。
5. **Add...**をクリックして、ネットワークアダプタを追加します。
Select Network Adapterダイアログボックスが表示されます。
6. Network Adapterリストボックスで**MS Loopback Adapter**を選択します。

7. **OK**をクリックします。

MS Loopback Adapter Card Setupダイアログボックスが表示されます。

8. **Frame Type**を802.3に設定します。

9. **OK**をクリックします。

Windows NT Setupダイアログボックスが表示されます。

10. i386ファイルがある場所へのパスを設定します (c:\i386\など)。

11. **Continue**をクリックします。

追加したアダプタがNetwork Adapterリストボックスに表示されます。

12. セットアップが終了したら、**Close**をクリックします。

Microsoft TCP/IP Propertiesダイアログボックスが表示されます。

13. **MS Loopback Adapter**を選択します。

14. **Specify IP Address**をクリックします。

" 次の手順で指定するIP Addressは、各自のインストール内容に合わせて変更する必要があるかもしれません。

15. **IP Address**ボックスに130.130.130.000と入力します。

16. **[Tab]**キーを押します。

17. **Subnet Mask**フィールドに255.255.0.0と入力します。

18. **OK**をクリックします。

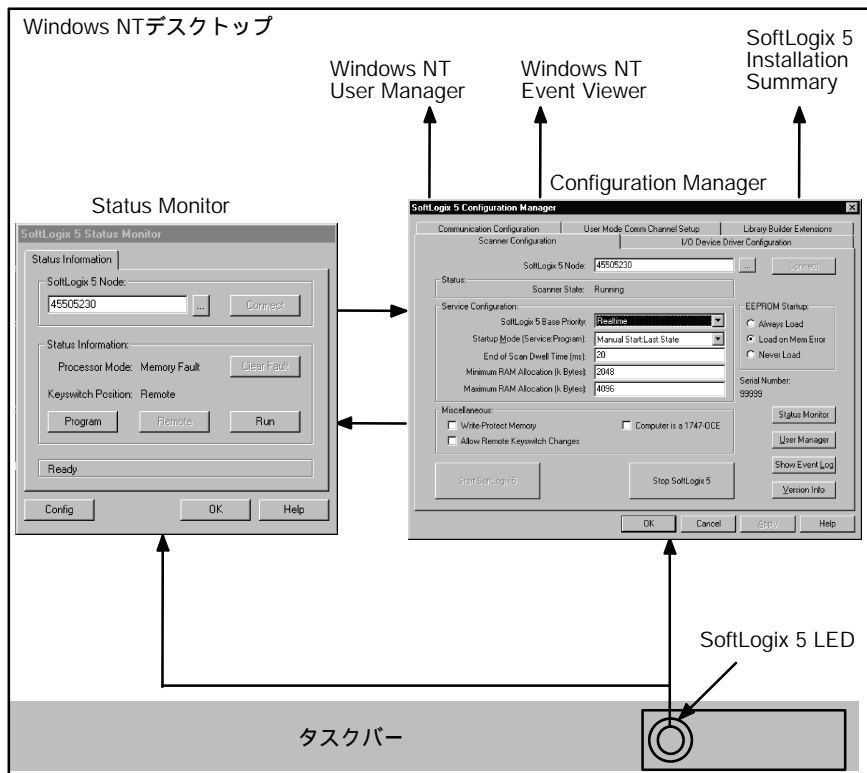
Network Settings Changeメッセージボックスが表示されます。

19. **Yes**をクリックしてワークステーションを起動し直し、変更内容を有効にします。

SoftLogix 5ユーザインターフェイスの操作

この手順の目的： SoftLogix 5ユーザインターフェイスを使用して、さまざまなウィンドウやダイアログボックスを呼び出します。

SoftLogix 5ユーザインターフェイスのマップング
 以下に示すソフトウェアマップは、SoftLogix 5インターフェイスを構成するダイアログボックスへのアクセスに使用する各種パスを示しています。



Status Monitor ダイアログボックスや**Configuration Manager**ダイアログボックスを呼出して下さい。

Configuration Managerダイアログボックスへのアクセス

1. (タスクバーの右側にある)SoftLogix 5 LEDを右クリックします。
2. 適切なオプションを選択して、**Status Monitor**ダイアログボックスまたは**Configuration Manager**ダイアログボックスを呼出します。

表示対象	操作
Status Monitorダイアログボックス	<p>A. SoftLogix 5 LEDを右クリックする。</p> <p>B. Display Status...を選択する。</p> <p>Status Monitorダイアログボックスが表示される。</p>
Configuration Managerダイアログボックス	<p>A. SoftLogix 5 LEDを右クリックする。</p> <p>B. Run Configuration...を選択する。</p> <p>Configuration Managerダイアログボックスが表示される。</p>

3. **OK**をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

SoftLogix 5コントローラの構成

この手順の
目的：

アプリケーションの必要条件に合わせて、SoftLogix 5コントローラを構成します。

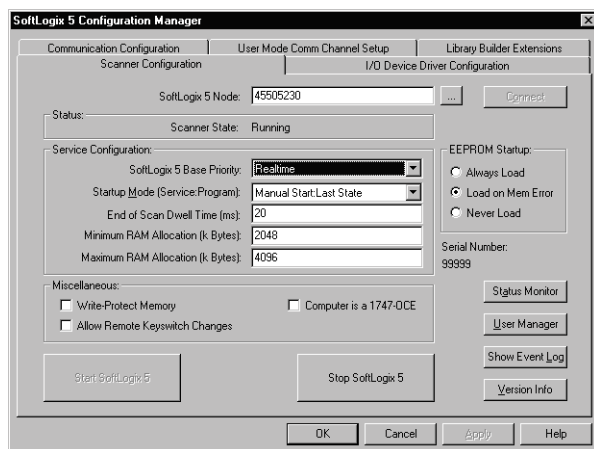
重要： 構成に加えた変更内容を有効にするには、変更を加えた後、SoftLogix 5コントローラをシャットダウンして、起動し直します。

1. Windows NTオペレーティングシステムに管理者としてログオンします (5ページの「Windows NTオペレーティングシステムへのログオン」を参照)。
2. SoftLogix 5 LEDをクリックします。

SoftLogix 5 Status Monitorダイアログボックスが表示されます。

3. **Config**をクリックします。

次のようなSoftLogix 5 Configuration Managerダイアログボックスが表示されます。



サービスの構成 以下の手順に従って、用途に合わせてSoftLogix 5コントローラを構成してください。

1. 適切なオプションを選択して、他のアプリケーションに対するSoftLogix 5コントローラの優先順位を設定します。

SoftLogix 5アプリケーション	SoftLogix 5基本優先順位の設定
ワークステーションで動いている他のアプリケーションに影響を与えずに、ラダープログラムとI/Oスキャン回数を反復可能にしたい場合	Realtime
Microsoft® Wordなどのアプリケーションと同じ優先順で動かせるようにして、割込みに影響されたくない場合	High
バックグラウンドで動かせるようにして、割り込まれてもかまわない場合	Normal
無効にする必要がある場合	Idle

2. 適切なオプションを選択して、SoftLogix 5コントローラとラダープログラムの起動モードを設定します。

指定内容	選択するオプション
SoftLogix 5コントローラの電源を投入するたびに、プロセッサファイルを読み込みたい場合	Always Load オプションボタン
メモリエラーの発生時に、プロセッサファイルを読み込みたい場合	Load on Mem Error オプションボタン
電源投入時やエラー条件の発生時に、プロセッサファイルを取り出さない場合	Never Load オプションボタン

3. 適切なオプションを選択して、SoftLogix 5コントローラとラダープログラムの起動モードを設定します。



注意：自動始動モードを選択するときは、その前に、ラダー・ロジック・プログラムが正常に動いていることを確認してください。

A. EEPROM Startup設定をAlways Loadにした場合

目的	キースイッチの設定				
	Program	Remote Prog	Remote Test	Remote Run	Run
手動始動 (最終状態)	Remote Run	Program	Remote Run	Remote Run	Run
手動始動 (リモートプログラム)	Remote Run	Program	Remote Run	Remote Run	Run
手動始動 (リモートラン)	Remote Run	Program	Remote Run	Remote Run	Run
自動始動 (最終状態)	Remote Run	Program	Remote Run	Remote Run	Run
自動始動 (リモートプログラム)	Remote Run	Program	Remote Run	Remote Run	Run
自動始動 (リモートラン)	Remote Run	Program	Remote Run	Remote Run	Run

B. EEPROM Startup設定をLoad on Memory Errorにした場合

目的	キースイッチの設定				
	Program	Remote Prog	Remote Test	Remote Run	Run
手動始動 (最終状態)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Program	Run
手動始動 (リモートプログラム)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Program	Run
手動始動 (リモートラン)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Program	Run
自動始動 (最終状態)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Program	Run
自動始動 (リモートプログラム)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Program	Run
自動始動 (リモートラン)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Program	Run

C. EEPROM Startup設定をNever Loadにした場合

目的	キースイッチの設定				
	Program	Remote Prog	Remote Test	Remote Run	Run
手動始動 (最終状態)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Run	Run
手動始動 (リモートプログラム)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Run	Run
手動始動 (リモートラン)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Run	Run
自動始動 (最終状態)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Run	Run
自動始動 (リモートプログラム)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Run	Run
自動始動 (リモートラン)	Program	Remote Program	Remote Program	Remote Run	Run



注意：End-of-scan 休止時間を0msecに設定すると、キーボードやマウスでオペレータが介入するのを禁止できます。ただし、End-of-scan 休止時間を0に設定した場合は、起動可能ディスクを使用してワークステーションを起動する必要があります。

4. End-of-Scan休止時間を調整して、他のWindows NTプログラムが中間的なラダー・ロジック・スキャンを実行する時間を指定します。
 - 範囲は0～1000msecです。
 - デフォルトは20msecです。
5. 適切なオプションを設定して、SoftLogix 5コントローラが使用するために予約するランダム・アクセス・メモリ (RAM)を指定します。

目的	操作
SoftLogix 5コントローラの最小RAM割当て	2～32Mバイトの値を選択する。
SoftLogix 5コントローラの最大RAM割当て	2～32Mバイトの値を選択する。

6. ワークステーションがOpen Controllerシステムの一部になっている場合は、**Computer is a 1747-OCE**オプションを選択します。

SoftLogix 5コントローラ用のユーザアカウントの作成

この手順の
目的：

SoftLogix 5コントローラをインストールしたときに作成したSoftLogix 5ユーザグループに、個々のアクセス権を割り当てます。

重要：ユーザアカウントの作成や修正を行なうには、Windows NTグループとSoftLogix 5 Administratorsグループのメンバーになっている必要があります。

1. Windows Startボタンをクリックします。
2. **Programs → Administrative Tools (Common) → User Manager**の順に選択します。
User Managerウィンドウが開きます。
3. SoftLogix 5コントローラの右側に割当てられたユーザのユーザ名をダブルクリックします。
User Propertiesダイアログボックスが表示されます。
4. **Groups**をクリックします。
Group Membershipsダイアログボックスが表示されます。

5. 適切なオプションを選択して、SoftLogix 5コントローラへのユーザアクセス権をカスタマイズします。

アクセス権	操作
Configuration Managerの実行、キースイッチ位置の変更、SoftLogix 5コントローラの起動 / 停止	<p>A. Not member of: リストから SoftLogix Admin を選択する。</p> <p>B. <-Add をクリックする。</p> <p>C. 手順6. に進む。</p>
共有メモリ・プログラミング・インターフェイスへのアクセス	<p>A. Not member of: リストから SoftLogix Control を選択する。</p> <p>B. <-Add をクリックする。</p> <p>C. 手順6. に進む。</p>
ラダー・ロジック・プログラムの作成、修正、ダウンロード、およびキースイッチ位置の変更	<p>A. Not member of: リストから SoftLogix Programmer を選択する。</p> <p>B. <-Add をクリックする。</p> <p>C. 手順6. に進む。</p>

6. **OK** をクリックします。

User Properties ダイアログボックスが表示されます。

7. 終わったら、**OK** をクリックします。

User Manager ウィンドウが表示されます。

8. 修正対象の残りのアカウントについても、手順3. ~ 7. を繰り返します。

9. User Manager ウィンドウを閉じます。

SoftLogix 5コントローラの起動 / 停止

この手順の
目的： SoftLogix 5サービスをアクティブまたは非アクティブに
します。

" SoftLogix 5コントローラの起動や停止ができるのは、
SoftLogix Adminグループに所属している場合だけです。

SoftLogix 5
コントローラの
起動 以下の手順に従って、SoftLogix 5コントローラを起動し
てください。

" この手順は、ラダー・ロジック・プログラムをコントロー
ラにダウンロードする前に実行しなければなりません。

1. SoftLogix 5 LEDをクリックします。

SoftLogix 5 Status Monitorダイアログボックスが表示さ
れます。

2. **Config**をクリックします。

SoftLogix 5 Configuration Managerダイアログボックス
が表示されます。

3. **Start SoftLogix 5**をクリックします。

SoftLogix 5コントローラが起動します。

4. 次に示すタブを参照して、SoftLogix 5コントローラの動作ステータスを判断します。

ステータスインジケータの表示	SoftLogix 5コントローラの状態
黒色に点灯	起動していない。
灰色に点灯	プログラムモードまたはリモート・プログラム・モードです。
赤色に点灯	ラダー・ロジック・プログラムが読み込まれていない。
赤色に点滅	フォルトが発生している。
緑色に点灯	ランモードまたはリモート・ラン・モードです。
緑色に点滅	ランモードまたはリモート・テスト・モードです。

SoftLogix5コントローラの停止

以下の手順に従って、SoftLogix 5コントローラを停止してください。

1. SoftLogix 5 LEDをクリックします。

SoftLogix 5 Status Monitorダイアログボックスが表示されます。

2. **Config**をクリックします。

SoftLogix 5 Configuration Managerが表示されます。



注意：SoftLogix 5コントローラを停止すると、制御対象のプロセスが不安定になるおそれがあります。誰かが負傷したり、装置が損傷したりするのを避けるため、コントローラをシャットダウンする前に、プロセスを停止しても安全なことを確認してください。

3. **Stop SoftLogix 5**をクリックします。

SoftLogix 5 LEDが黒色になります。

割り込みとメモリアドレスの判断

この手順の
目的：

Windows NTオペレーティングシステムが動作しているコンピュータの、空き割り込みと空きメモリ領域を判断します。この情報は、通信カードのような追加デバイスをコンピュータに装着するときに必要になります。

1. Windows **Start**ボタンをクリックします。
2. **Programs** → **Administrative Tools (Common)** → **Windows NT Diagnostics**の順に選択します。
Windows NT Diagnosticsウィンドウが表示されます。
3. **Resources**タブを選択します。
4. 適切なオプションを選択して、割り込みとメモリを表示します。

表示対象	操作
空き割り込み	手順5.に進む。
空きメモリ領域	手順7.に進む。

5. **IRQ**をクリックします。
使用中の割り込みがすべて表示されます。

” この割り込みリストには、ワークステーションの全デバイスを対象にした割り込みがすべて表示されているとは限りません。デバイスが起動していなければ、その割り込みはこのリストには表示されません。

6. 空いていると思われる割り込みを (今後の参考用に)メモします。

7. **Memory**をクリックします。

使用中のメモリ範囲が表示されます。

" このメモリリストには、使用中のメモリ範囲がすべて表示されるとは限りません。デバイスが起動していなければ、そのメモリ割当てはこのリストには表示されません。

8. 使用中のメモリ領域を (今後の参考用に)メモします。

9. 終わったら、**OK**をクリックします。

Windows NT Diagnostics ウィンドウが閉じます。

1784-KTx通信カードの装着と構成

この手順の
目的：

Windows NTオペレーティングシステムが動作しているコンピュータに、1784-PKTx, 1784-KTXD, または1784-KTS通信カードを装着します。

"

この手順では、1784-KTX, -KTXD, -KTS通信インターフェイスカードを表す言葉として、1784-KTxを使用します。

1. 自分のコンピュータの空きメモリ領域と割込みを判断します (67ページの「空いている割込みとメモリアドレスの判断」を参照)。
2. 先ほど判断した空きメモリアドレスに合わせて、1784-KTxカードのロータリスイッチを設定します。
3. 先ほど判断した空き割込みに合わせて、1784-KTxカードの適切な割込みジャンパを設定します。
4. Windows NTオペレーティングシステムをシャットダウンして、コンピュータへの電源を切断します。
5. カードの説明書に従って、1784-KTx通信インターフェイスカードをコンピュータに装着します。
6. コンピュータの電源を投入します。
7. Windows NTオペレーティングシステムにAdministratorとしてログオンします (3ページの「Windows NTオペレーティングシステムへのログオン」を参照)。

リモートI/O通信用のSoftLogix 5コントローラの構成

この手順の
目的：

SoftLogix 5コントローラをリモートI/Oラックに接続します。

1. 1784-KTx通信カードの空きメモリ範囲と割込みを構成します (67ページの「空いている割込みとメモリアドレスの判断」を参照)。
2. SoftLogix 5コントローラが動作しているコンピュータに1784-KTx通信カードを装着します (69ページの「1784-KTx通信カードの装着と構成」を参照)。

スイッチ設定の詳細は、その装置に付属するマニュアル、または『クラシック1785 PLC-5プログラマブルコントローラ ユーザーズマニュアル』(Pub. No. 1785-6.2.1)を参照してください。

3. 1771 I/Oシャーシの裏面にあるジャンプスイッチを設定します。
4. 1771-ASBリモートI/Oアダプタのジャンプスイッチを設定します。
5. 1771-ASBを1771 I/Oラックに装着します。
6. 1784-KTxカードと1771-ASBリモートI/Oアダプタモジュールを、Blue Hose™ケーブルで接続します。
7. コンピュータと1771 I/Oラックの電源を投入します。
8. SoftLogix 5コントローラを起動します。
9. SoftLogix 5コントローラを使用して自動構成を実行します。

リモート/ラン/プログラムモードの選択

この手順の
目的：

SoftLogix 5 Status Monitorダイアログボックスを使用して、SoftLogix 5コントローラの動作モードを選択します。

''

この手順は、コンピュータ上でSoftLogix 5コントローラが起動されていることを前提にしています。

1. SoftLogix 5 LEDを、マウスの右ボタンでクリックします。

SoftLogix 5 Status Monitorメニューが表示されます。

2. **Display Status...**を選択します。

SoftLogix 5 Status Monitorダイアログボックスが表示されます。

3. 適切なオプションを選択して、SoftLogix 5コントローラの動作モードを選択します。

目的	操作
SoftLogix 5コントローラに読み込まれたラダー・ロジック・プログラムを実行開始する。	Runをクリックする。 SoftLogix 5 LEDが緑色に変わる。 Processor ModeフィールドにRun (ラン)モードと表示される。
ラダー・ロジック・プログラムを修正またはダウンロードする。	Programをクリックする。 SoftLogix 5 LEDが白色に変わる。 Processor ModeフィールドにProgram (プログラム)モードと表示される。
プログラミングソフトウェアからSoftLogix 5コントローラの動作モードを制御する。	Remoteをクリックする。 Processor ModeフィールドにRemote Program (リモートプログラム)モードと表示される。

リモート・プログラミング・ソフトウェアとSoftLogix 5コントローラ間のRAS接続の確立

この手順の
目的：

SoftLogix 5コントローラと、プログラミングソフトウェアが動作しているリモートコンピュータとの間に、通信接続を確立します。

''

PLC-5 A.I. シリーズ・プログラミング・ソフトウェア (バージョン8.04以降)を使用している場合は、A.I. 5 Remote NT Programming Utility (AISRemPg.exe)をリモートコンピュータにインストールする必要があります。このファイルは、<http://openautomation.com>というWebサイトのRemote Accessリンクから入手できます。

1. SoftLogix 5コントローラを起動します (65ページの「SoftLogix 5コントローラの起動/停止」を参照)。
2. サーバ (SoftLogix 5)コンピュータのRemote Access Serviceが構成済みであることを確認します (33ページの「サーバコンピュータでのRemote Access Service (RAS)の構成」を参照)。
3. Client (リモートプログラミング)コンピュータでDial-Up Networkingを起動します (41ページの「クライアントコンピュータのRemote Access Service (RAS)用の構成」を参照)。
4. クライアントコンピュータでプログラミングソフトウェアを起動します。
5. プログラミングソフトウェアがSoftLogix 5コントローラ用に構成されていることを確認します。
6. SoftLogix 5キースイッチをリモート・ラン・モードに設定します (73ページの「リモート/ラン/プログラムモードの選択」を参照)。

SoftLogix 5コントローラは、リモートコンピュータ上のプログラミングソフトウェアを使用して、リモートアクセスできるようになります。

フォルトのクリア

この手順の
目的：

SoftLogix 5コントローラのフォルトをクリアします。

この手順は、ラダー・ロジック・プログラムがSoftLogix 5コントローラで動作していることを前提にしています。

1. SoftLogix 5 LEDをクリックします。

SoftLogix 5 Status Monitorダイアログボックスが表示されます。



注意：SoftLogix 5コントローラがランモードになっている場合、フォルトがクリアされると、コントローラは即座に実行開始されます。誰かが負傷したり、装置が損傷したりするのを避けるため、フォルトがクリアされたら、プロセスを続行しても安全なことを確認してください。

2. **Clear Fault**をクリックします。

SoftLogix 5 LEDの赤色の点滅が止まります。

3. コントローラがリモートモードになっている場合は、**Run**をクリックします。

SoftLogix 5コントローラがランモードに設定されます。

システムパフォーマンスのモニタ

この手順の
目的： SoftLogix 5の稼動しているWindows NTオペレーティング
システムのパフォーマンスをモニタします。

TestTimeプロ
グラムの実行 以下の手順に従って、TestTimeプログラムを実行して、結
果を解読してください。

" TestTimeプログラムは、2msecごとに実行されるようにス
ケジュール設定されています。TestTimeプログラムの目的
は、総合的なシステムパフォーマンスを推定する際の参考
になるように、Windows NTオペレーティングシステムの
パフォーマンスをモニタすることです。TestTimeを使用す
ると、システムパフォーマンス、プログラムのスキャン時
間、End-of-scan休止時間を考慮して、さまざまなイベント
がシステムパフォーマンスに与える影響を確認することが
できます。

1. 適切なCD-ROMドライブに、SoftLogix 5のCD-ROM
ディスクを挿入します。

SoftLogix 5のオープニング画面が自動的に表示されま
す。

2. **Browse Utilities**をクリックします。

SoftLogix CD utilitiesダイアログボックスが表示されま
す。

3. **TestTime Scan Measurement Utility**をクリックしま
す。

プログラムが起動します。

4. 適切なオプションを選択して、TestTime画面を解釈します。

" TestTime画面に表示された範囲データは、追跡すると最も役立つデータです。範囲には、TestTimeがアクティブになって以降の最善と最悪のスキャン時間が表示されます。

目的	表示
TestTimeルーチンの実行回数	Obs (observation instance)カウンタ
最善/最悪スキャン時間の平均	Avg 値
TestTimeプログラムが起動して以降の最善と最悪のスキャン時間の範囲	Range 値
標準偏差	Sdev 値

5. TestTimeプログラムを終了するには、TestTimeウィンドウを閉じます。
6. CD-ROMドライブから、CD-ROMディスクを取り出します。

Performance Monitorの実行 以下の手順に従って、Windows NT Performance Monitorをセットアップし、実行してください。

1. WindowsのStartボタンをクリックします。
2. **Programs → Administrative Tools (Common) → Performance Monitor**の順に選択します。
Performance Monitorウィンドウが開きます。
3. 適切なオプションを選択して、Performance Monitorを起動します。

目的	進む手順
グラフの初期化	手順4.に進む。
ログの作成	手順6.に進む。
アラートログの作成	手順7.に進む。
レポートの作成	手順8.に進む。

4. 適切なオプションを選択して、グラフウィンドウを開きます。

目的	操作
新しいグラフを開始する。	<p>A. EditメニューからAdd to Chartを選択する。 Add to chartダイアログボックスが表示される。</p> <p>B. 手順5.に進む。</p>
保存済みのグラフを開く。	<p>A. FileメニューからOpenを選択する。 Performance Monitor File Openダイアログボックスが表示される。</p> <p>B. 開きたいグラフファイルを選択する。</p> <p>C. Openをクリックする。 グラフが表示される。</p>
チャートウィンドウを開く。	ViewメニューからChartを選択する。 Chartウィンドウが開く。

5. 適切なオプションを選択して、グラフ表示をカスタマイズします。

目的	操作
モニタ対象のコンピュータの名前を指定する。	<p>A. Computer : フィールドの右にある...ボタンをクリックする。 Select Computerダイアログボックスが表示される。</p> <p>B. Select Computer リストボックスからコンピュータを選択する。 コンピュータ名がComputerフィールドに表示される。</p> <p>C. OK をクリックする。</p>
コンピュータ上のモニタ対象のオブジェクトを選択する。	Object : プルダウンメニューをクリックして、モニタ対象のオブジェクトを選択する。
モニタ対象のオブジェクト内でカウンタを選択する。	Counter : リストボックスから希望のコンピュータを選択する。
グラフの線の色を変更する。	Color プルダウンメニューを選択して、希望の色を選択する。
グラフのスケールを選択する。	Scale : プルダウンメニューを選択して、希望のスケールを選択する。
グラフの線のサイズを変更する。	Width : プルダウンメニューを選択して、希望の線幅を選択する。
グラフの線の線種を変更する。	Style : プルダウンメニューを選択して、希望の線種を選択する。
先ほど指定したグラフ設定を適用する。	Add をクリックする。 Performance Monitorがグラフの作成を始める。
グラフ設定を保存する。	Fileメニューから Save Chart Settings を選択する。

6. 適切なオプションを選択して、ログを作成します。

目的	操作
Logウィンドウを開く。	Viewメニューから Log を選択する。 Logウィンドウが開く。
新たなログを開始する。	Editメニューから Add To Log を選択する。 Add To Logダイアログボックスが表示される。
保存しておいたログを開く。	A. Fileメニューから Open を選択する。 Performance Monitor File Openダイアログボックスが表示される。 B. 開きたいログファイルを選択する。 C. Open をクリックする。 ログが表示される。
ログ設定を保存する。	Fileメニューから Save Log Settings を選択する。

7. 適切なオプションを選択して、アラート (警報)ログを作成します。

目的	操作
アラートウィンドウを開く。	Viewメニューから Alert を選択する。 Alertウィンドウが開く。
記録するアラートを判断するためのスレッシュホルド (閾値)を設定する。	A. Editメニューから Add to Alert... を選択する。 Add to Alertダイアログボックスが表示される。 B. 希望の Alert if Over または Under オプションボタンを選択する。 C. 記録するアラートを判断するためのスレッシュホルドレベルを入力する。 D. Add をクリックする。 E. Done をクリックする。
アラートログの設定内容を保存する。	Fileメニューから Save Alert Settings を選択する。 ファイル名と場所を指定する。

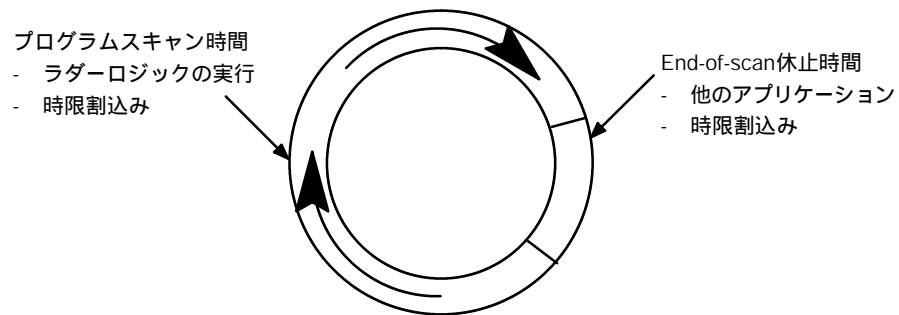
8. 適切なオプションを選択して、レポートを作成します。

目的	操作
レポートを開く。	Viewメニューから Report を選択する。
レポートの内容を指定する。	A. Editメニューから Add to Report を選択する。 B. レポートの対象にするコンピュータ、オブジェクト、カウンタを選択する。 C. 終わったら、 Add をクリックする。 レポートオプションが自動的に更新される。
レポート設定を保存する。	Fileメニューから Save Report Settings を選択する。
レポートオプションの現在値を取得する。	Optionsメニューから Update Now を選択する。

End-of-scan休止時間の調整

この手順の目的： 他のプログラムにWindows NTオペレーティングシステムを使用させる時間をmsec単位で指定します。End-of-scan休止時間を使用すると、ラダー・ロジック・プログラムによる次のスキャンまでの間に、SoftLogix 5コントローラが存在しないかのように、優先順位の低い他のWindows NTプログラムを実行できます。

スキャン時間の定義 プログラムスキャン時間とEnd-of-scan休止時間は、以下のように表現できます。



End-of-scan休止時間の調整 以下の手順に従って、End-of-scan休止時間を調整してください。

1. Windows NTオペレーティングシステムにAdministratorとしてログオンします (3ページの「Windows NTオペレーティングシステムへのログオン」を参照)。

2. タスクバーの**SoftLogix 5 LED**をクリックします。

SoftLogix 5 Status Monitorダイアログボックスが表示されます。

3. **Config**をクリックします。

SoftLogix 5 Configuration Managerウィンドウが開きます。

" デフォルトのEnd-of-scan休止時間は20msecです。Windows NTオペレーティングシステムから最善の実効性能を得られるまで、この値を増減します。低い値にすると、キーボード、マウス、その他のプログラムの動作が遅くなる可能性があります。SoftLogix 5コントローラの性能は最大になります。



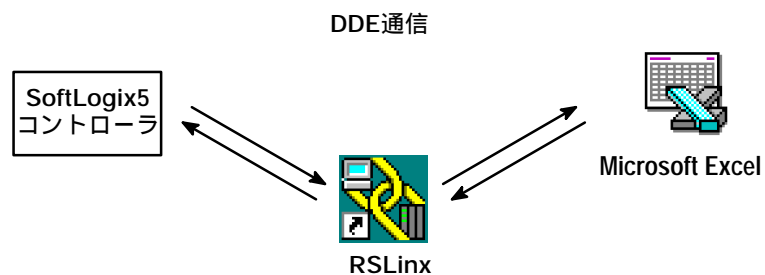
注意：End-of-scan休止時間を0msecに設定すると、キーボードやマウスでオペレータが介入するのを禁止できます。ただし、End-of-scan休止時間を0msecに設定した場合は、起動可能ディスクを使用してワークステーションを起動する必要があります。

4. End-of-scan休止時間を希望の時間 (単位：msec) に設定します。

- 範囲は0 ~ 1000msecです。
- デフォルトの時間は20msecです。

DDEリンクの構成

この手順の目的： SoftLogix 5コントローラがスプレッドシートにリンクされるように、DDEトピックを構成します。



SoftLogix5通信ドライバの構成 以下の手順に従って、SoftLogix 5通信ドライバを構成してください。

1. SoftLogix 5コントローラをプログラムモードに設定します。



注意：SoftLogix 5コントローラを停止すると、制御対象のプロセスが不安定になるおそれがあります。誰かが負傷したり、装置が損傷したりするのを避けるため、コントローラをシャットダウンする前に、プロセスを停止しても安全なことを確認してください。

2. **Stop SoftLogix 5**をクリックします。
SoftLogix 5 LEDが黒色に点灯します。
3. Configuration Monitorダイアログボックスで **Communication Configuration**タブを選択します。
4. Available Driversリストから**SoftLogix 5 WinSock32 TCP/IP Driver**を選択します。

5. **Install**>>をクリックします。

TCP/IP CH:3A Configurationダイアログボックスが表示されます。

6. **OK**をクリックします。

SoftLogix 5 WinSock32 TCP/IP DriverがInstalled Driversフィールドに移動します。

7. **Apply**をクリックします。

8. **OK**をクリックします。

ネットワーク
通信の構成

以下の手順に従って、ネットワーク通信ドライバを構成してください。

1. Windowsの**Start**ボタンをクリックします。

2. **Programs** → **Rockwell Software** → **RSLinxRSLinx** → の順に選択します。

Rockwell Software RSLinxウィンドウが開きます。

3. Communicationsメニューから**Configure Drivers...**を選択します。

Configure Driversダイアログボックスが表示されます。

4. Available DriversリストからSoftLogix 5ドライバを選択します。

5. **Add New...**をクリックします。

Add New RSLinx Driverダイアログボックスが表示されます。

6. **OK**をクリックします。

Configure driver for SoftLogix 5ダイアログボックスが表示されます。

RSWhoの実行 以下の手順に従って、RSWhoを実行して、SoftLogix 5コントローラが動作しているコンピュータを検出してください。

" RSWhoプロシージャを実行する前に、SoftLogix 5コントローラを起動していなければなりません。

1. SoftLogix 5コントローラを起動します (65ページの「SoftLogix 5コントローラの起動/停止」を参照)。

2. Communicationsメニューから**RSWho**を選択します。

ネットワーク上のアクティブなステーションが表示されます。

DDEトピックの構成 以下の手順に従って、DDEトピックを構成してください。

1. SoftLogix 5コントローラが動作しているコンピュータの名前を、RSLinxウィンドウから選択します。

2. DDEメニューから**Topic Configuration...**を選択します。

DDE/OPC Topic Configurationダイアログボックスが表示されます。

3. 適切なオプションを選択して、DDEトピックを作成または修正します。

目的	操作
トピックの新規作成	A. 手順4.に進む。
既存トピックの編集	A. 修正するトピックを選択する。 B. 手順6.に進む。

4. **New**をクリックします。

NEW_TOPIC名がTopicリストに表示されます。

5. テキストボックスで、NEW_TOPIC Nameの名前を変更します (最大10文字)。

6. Data Collectionタブをクリックします。

7. Processor TypeをSoftLogix 5に設定します。
8. Polled Messages Rateを1,000msec (ms)に設定します。
9. **Apply**をクリックします。
行なった変更内容を受入れるように指示されます。
10. **Done**をクリックします。

DDEリンクの 確立

以下の手順に従って、SoftLogix 5コントローラとMicrosoft Excelスプレッドシート間にDDEトピックを確立してください。

1. EditメニューからCopy DDE Link to Clipboardを選択します。
Copy DDE Link to Clipboardダイアログボックスが表示されます。
2. モニタしたいアドレスをData Table Addressテキストボックスに入力します。
3. Block Sizeボックスに数値を入力します。
4. Columns per Rowボックスに数値を入力します。
5. モニタしたいステーションに一致するトピックの名前を、Topicボックスから選択します。
6. OKをクリックします。
7. RSLinxを実行したままで、Microsoft Excelを起動します。
8. ホットリンクのターゲットにするスプレッドシートのセルに、セルポインタを配置します。
9. EditメニューからPaste Specialを選択します。
10. Paste Linkオプションボタンを選択します。
11. **OK**をクリックします。
12. SoftLogix 5コントローラで値が変化すると、セルの値も更新されます。

付録A - マウスとキーボードによる操作

キーボードを使用する場合

キーボードを使用してテキストを入力するには、次のオプションのいずれかを選択します。

目的	操作
入力する。	必要なテキストを入力して、 [Enter] キーを押す。
タイプする。	必要なテキストを入力する ([Enter] はキー押さない)。




マウスを使用する場合

マウスで操作を実行するには、次のオプションのいずれかを選択します。

目的	操作
クリック	A. 希望の項目をマウスでポイントする。 B. マウスの左ボタンを押して離す。
ダブルクリック	A. 希望の項目をマウスでポイントする。 B. マウスの左ボタンを押して離す操作を、2回連続で素早く行なう。
右クリック	A. 希望の項目をマウスでポイントする。 B. マウスの右ボタンを押して離す。
ドラッグ	A. 希望の項目をマウスでポイントして、マウスの左ボタンを押したままにする。 B. ポインタを希望の位置まで移動して、ボタンを離す。

(続く)

マウスを使用する
場合 (続き)

目的	操作	例
メニューバーからのコマンドの選択	<p>A. メニューバーでメニューの名前をクリックして、リストを開く。</p> <p>B. コマンドの名前をクリックする。</p>	
チェックボックスの選択またはクリア	<p>チェックボックスをクリックして、選択状態と選択解除状態を切替える。</p>	<p>選択状態 選択解除状態</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
コマンドボタンのクリック	<p>コマンドボタンをマウスでポイントして、マウスの左ボタンを押して離す。</p>	
ドロップダウンリストからの項目の選択	<p>A. カーソルをドロップダウンリストに位置付けて、マウスの左ボタンを押して離す。 ドロップダウンリストが表示される。</p> <p>B. カーソルを希望の位置に移動して、ボタンを離す。 リストが閉じて、選択した項目がリストの上にあるボックスに表示される。</p>	
オプションボタンの選択	<p>適切なオプションボタンをクリックする。 選択したオプションボタンに黒い点が表示される。</p>	<p><input checked="" type="radio"/> Components <input type="radio"/> Tables</p>
テキストボックスへの情報の入力	<p>A. テキストボックスをクリックする。 入力を始めたときにテキストが表示される位置は、挿入ポイントによってわかる。</p> <p>B. キーボードを使用して情報を入力する。</p>	<p>Name <input type="text"/></p> <p>Name <input type="text" value="Test1"/></p>

付録B – Windowsの基本的な操作


この手順の
目的：

Windowsで次のような基本的な操作を行ないます。

- ソフトウェアプログラムを起動する。
- ファイルを開く。
- ウィンドウやダイアログボックスを閉じる。
- ファイルを保存する。
- アクティブなアプリケーションプログラムを切替える。
- プログラムを終了する。

ソフトウェアプ
ログラムの起動

通常は、次に示す操作を実行すると、ソフトウェアプログラムを起動することができます。

1. Windowsの  **Start** メニューから**Programs**を選択します。

Programsのサブメニューが表示されます。

2. 起動したいプログラムを探し、クリックして開きます。

プログラムが開いて、そのソフトウェアのメインウィンドウが表示されます。


ファイルを開く 以下の手順に従って、コンピュータの恒久記憶装置に保存されているファイルを開いてください。

1. Fileメニューから**Open...**を選択します。

File Openダイアログボックスが開きます。

2. Look inドロップダウンリストで、その文書を最後に保存したディレクトリを選択します。
3. 次に示すオプションのいずれかを選択して、ファイルを開きます。

ファイルの保存先	操作
ディレクトリのルート	ファイル名をダブルクリックする。
ディレクトリ内のフォルダ	<ol style="list-style-type: none"> A. フォルダをダブルクリックして開く。 B. 開きたいファイルを探す。 C. ファイルをダブルクリックして開く。

ウィンドウやダイアログボックスを閉じる 開いているウィンドウやダイアログボックスを閉じるには、アクティブなウィンドウやダイアログボックスの右上にある  ボタンをクリックします。

ファイルの保存 コンピュータのメモリにファイルを格納するには、次に示すオプションのいずれかを実行します。

目的	操作	その他の操作
ファイルを初めて保存する。	FileメニューからSaveを選択する。 (Save Asダイアログボックスが表示される)	A. Save in ドロップダウンリストから、文書を保存する場所を選択する。 注：ディレクトリ内のフォルダにファイルを保存する場合は、フォルダをダブルクリックして開く。
<ul style="list-style-type: none"> ファイル名を変更する。 ファイルを別のディレクトリに保存する。 	Fileメニューから Save As を選択する。	B. Filename テキストボックスにファイルの名前を入力する。 C. Save as type ドロップダウンリストから、文書のファイル形式を選択する。 D. Save をクリックしてファイルを保存する。
変更した後でファイルを再保存する。	Fileメニューから Save を選択する。	なし (ファイルは再保存される)

アクティブなアプリケーションプログラムの切換え 以下の手順に従って、現在のソフトウェアプログラムと別のアクティブなプログラム間で切換えてください。

- [ALT]**キーを押したままで、目的のプログラムが現在のアクティブなプログラムになるまで、**[TAB]**キーを繰り返し押します。
- 切換えたいプログラムが表示されたら、**[ALT]**キーを離します。

用語集

用語集

本書では次のような用語を使用します。

Configuration Manager : コントローラの起動と停止、およびアプリケーションに合わせたコントローラのカスタマイズに使用するSoftLogix5ダイアログボックス

End-of-scan休止時間 : ラダー・ロジック・プログラムによる次のスキャンまでの間に、SoftLogix 5コントローラが存在しないかのように、優先順位の低い他のWindows NT機能を実行するために割り当てる時間

SoftLogix 5コントローラ : Windows NT 4.0環境で動作する、ソフトウェアとハードウェア制御機能が統合されたシステム。SoftLogix 5コントローラは、PLC-5プロセッサに相当する。

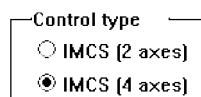
Status Monitor : PLC-5プロセッサのキースイッチに相当するものが入ったSoftLogix 5ダイアログボックス。Status Monitorを使用すると、コントローラをProgram, Remote, Runの各モードに設定できる。

TCP/IP : Transport Control Protocol/Internet Protocolネットワーク機能

オプションボタン : ダイアログボックスにある、関連する複数のオプションの選択肢を表す小さな丸いボタン。オプションを選択するには、オプションボタンをクリックする(「ダイアログボックス」を参照)。

例 :

次の例では、IMCS (4 axes)オプションが選択状態になり、IMCS (2 axes)オプションは選択解除状態になっている。



クリア：オン/オフの切り換えが可能なチェックボックスやコマンドについて、その項目をオフにすること。項目を切り換えるには、そのチェックボックスまたはコマンドをクリックする。

例：

次に示す項目はクリアされている。

IMCS [2 axes] 1394 Integrated Drive

クリック 指定項目をマウスで選択する2種類の方法の1つ（「ダブルクリック」を参照）

システム修復ディスク：損傷したファイルを修復できるように、Windows NT 4.0の現在のシステム設定を保存するのに使用するディスク

ショートカット：使用頻度の高いアプリケーションやファイルにアクセスするために、Windows NT 4.0で作成したアイコン

挿入ポイント：タイプしたときにテキストが挿入される位置、または[Backspace]キーや[Del]キーを押したときにテキストが削除される位置。挿入ポイントは、通常、点滅する縦棒としてテキストボックスに表示される。

選択する：次に示す操作のいずれかを実行する必要があることを表す。

対象	操作
使用可能な選択肢の表示からの1項目	適切な項目（ファイル名、命令、アドレスなど）をクリックする。
メニューからのコマンド	そのコマンドをクリックする。
オン/オフに切り換え可能なチェックボックス、オプションボタン、コマンド	その項目をオンにする。

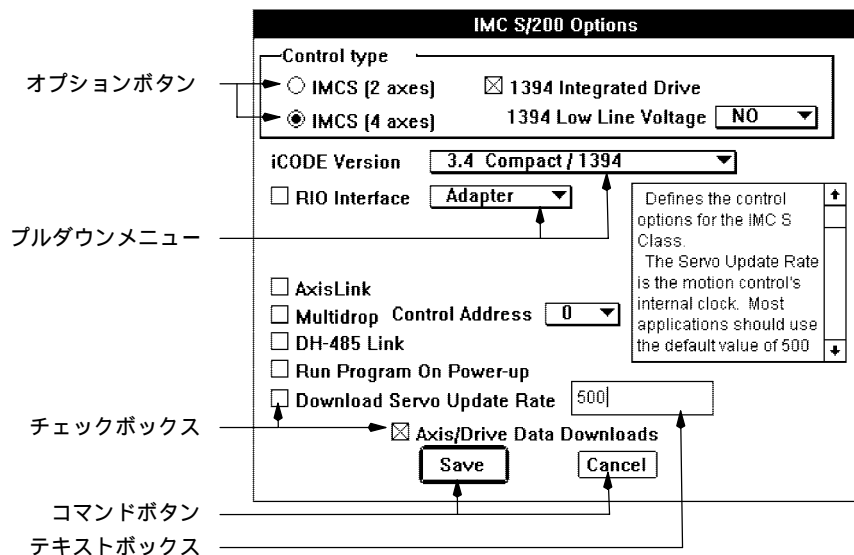
例：-

次に示す項目は選択状態である。

1394 Integrated Drive

IMCS [4 axes]

ダイアログボックス：選択した操作に関する情報を要求したり提供したりするために一時的に表示されるウィンドウ。本書に登場するダイアログボックスには、次のような項目の全部または一部が含まれている。



タイプする：[Enter]キーを押さずに、情報を入力すること

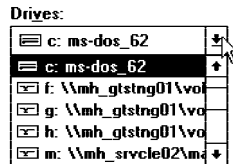
ダブルクリック：指定項目をマウスで選択する2種類の方法の1つ（「クリック」を参照）

チェックボックス：ダイアログボックスにある、オン/オフの切換え（選択）が可能なオプションを表す小さな四角形。オプションを切換えるには、そのチェックボックスをクリックする（「ダイアログボックス」を参照）。

テキストボックス：ダイアログボックスにある、テキストを入力するためのボックス。テキストボックスに挿入ポイントを表示するには、そのボックスをクリックする（「挿入ポイント」を参照）。

ドラッグ&ドロップ：マウスを使用して画面上のオブジェクトを移動すること

ドロップダウンメニュー：Windowsで、マウスによってアクティブにしたときしか表示されない、ふだんは隠されているメニュー

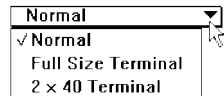


入力する：指定された情報をタイプして、[Enter]キーを押すこと

バックアップ：プログラムとデータをハードディスクドライブからテープにコピーする処理



ハードウェア互換性リスト：Windows NT 4.0ワークステーションとの互換性があることが判明しているコンピュータや周辺機器の名前が並んだリスト

プルダウンメニュー：マウスでアクティブにすると完全なオプションリストが表示される、部分的に隠されたメニュー（「ダイアログボックス」を参照）



メニュー：使用可能なコマンドのリスト。メニューを表示するには、メニューバーでメニュー名をクリックする。

ユーザアカウント：Windows NT 4.0ワークステーションで、ワークステーションへのアクセスレベルを指定するための情報

リストボックス：ダイアログボックス内の、使用可能な選択肢が並んだボックス。リストボックスに  と表示されている場合は、 をクリックすると追加の選択肢が表示される。

ログオン：アカウントを検証して、Windows NT 4.0ワークステーションにアクセスできるようにするプロセス

ログオフ：Windows NT 4.0ワークステーション上のセッションを終了するプロセス

索引

A

A.I.シリーズプログラミングソフトウェア, 75

D

DDEトピック, 89

DDEリンク, 90

E

End-of-scan休止時間, 86

P

Performance Monitor, 81

R

RSWho, 89

S

SoftLogix 5コントローラの起動, 65

SoftLogix 5コントローラの休止, 66

T

TC/IPネットワーク, 52

TestTimeプログラム, 79

W

Windows NT 4.0オペレーティングシステム, 1

Windows NTシステムが記録したイベント, 27

Windows NTのシャットダウン / 再起動

キーボードコマンドの使用, 31

マウスコマンドの使用, 29

あ

アイコン名の変更, 9

アプリケーションの起動方法, 8

い

インストール, 51

か

可能性があるセキュリティ違反, 27

き

起動モード, 58

キーボード

Windows NTの再起動, 31

コンピュータの電源シャットダウン, 31

キーボードコマンドの使用, Windows NTのシャットダウン / 再起動, 31

共有ドライブ, 36

共有ドライブへのアクセス権, 38

く

クライアント, シリアル通信ポート, 44

クライアントコンピュータでのRASの構成, 41

グループからのメンバーの削除, 20

グループへのメンバーの追加, 20

さ

サーバ, シリアル通信ポート, 39
サーバコンピュータ, 35
サーバコンピュータ上でのRASの構成,
33

し

システム修復ディスク, 13
ショートカットの作成, 9

す

スキャン時間, 85

そ

ソフトウェアアプリケーションが記録した
イベント, 27
ソフトウェアに必要な条件, 2

た

ダイヤルアップネットワーク, 46

つ

通信カードを装着, 69

て

テープ・バックアップ・システム, 15

な

内容の表示, 10

ね

ネットワークサービス, 23
ネットワークドライブ, 50

は

パスワード, 4
ハードウェアの必要条件, 1

ふ

ファイルの移動, 10
ファイルのコピー, 10
プロトコル, 23

ま

マウス
コンピュータの再起動, 30
コンピュータの電源シャットダウ
ン, 30
マウスコマンドの使用, Windows NTの
シャットダウン / 再起動, 29

ゆ

優先順位, 58
ユーザアカウント, 19
ユーザアカウントの作成, 63
ユーザアクセス権のカスタマイズ, 64
ユーザインターフェイス, 7

り

リモートI/Oラックとの接続, 71
リモートアクセス, 35

ろ

ログオフ, 5
ログオン, 3

わ

ワークステーションのロック, 25
ワークステーションのロック解除, 26

以下は、Rockwell International Corporation の登録商標です。

ALLEN-BRADLEY

A-B in octagon with the word quality

PLC

以下は、Rockwell International Corporation の商標です。

SoftLogix

SoftLogix5

RSLinx

Reach us now at www.rockwellautomation.com

Wherever you need us, Rockwell Automation brings together leading brands in industrial automation including Allen-Bradley controls, Reliance Electric power transmission products, Dodge mechanical power transmission components, and Rockwell Software. Rockwell Automation's unique, flexible approach to helping customers achieve a competitive advantage is supported by thousands of authorized partners, distributors and system integrators around the world.



Americas Headquarters, 1201 South Second Street, Milwaukee, WI 53204, USA, Tel: (1) 414 382-2000, Fax: (1) 414 382-4444
European Headquarters SA/NV, avenue Herrmann Debroux, 46, 1180 Brussels, Belgium, Tel: (32) 2 663 09 00, Fax: (32) 2 663 06 40
Asia Pacific Headquarters, 27/F Citicorp Centre, 16 Whitfield Road, Causeway Bay, Hong Kong, Tel: (852) 2687 4768, Fax: (852) 2508 1846

